

平成28年度  
大規模肉用牛経営動向に関する調査報告書



平成29年3月  
独立行政法人農畜産業振興機構



## はじめに

この報告書は、株式会社工業市場研究所に委託して実施した平成 28 年度大規模肉用牛経営動向に関する調査の成果を取りまとめたものである。

肉用牛経営においては、もと畜費の上昇により生産費の増加が経営を圧迫している。そのため、増頭による規模拡大や繁殖部門までを取り入れた一貫経営の推進、ブランド化による販売増加や輸出などに取り組む経営体も見られるところである。

このような状況下において、大規模肉用牛肥育経営の生産実態に関するデータが少ないことから、アンケート調査により大規模肉用牛経営の現状を把握するとともに、安定的、効率的な肉用牛経営の推進に資することを目的として調査結果を取りまとめた。

本報告書が肉用牛生産農家及び関係者に広くご活用いただき、今後における何らかの参考になれば幸いである。

最後に、本調査の実施にあたって、ご協力いただいた調査対象農家、関係者各位に深甚の謝意を表する次第である。

平成 29 年 3 月

独立行政法人 農畜産業振興機構



## 目次

【調査概要】 .....	1
【要約版】 .....	3
【詳細版】 .....	7
1 平成 27 年度の経営概況 .....	7
(1) 飼養頭数 .....	7
(2) 経営土地面積、畜産用地 .....	10
(3) 経営形態 .....	11
(4) 売上高 .....	13
(5) 労働力 .....	15
2 生産費（肥育牛 1 頭当たり） .....	18
3 もと畜の導入状況 .....	20
(1) 年間もと畜導入状況 .....	20
(2) もと畜を外部から導入する際の重視点 .....	21
4 肥育牛の出荷状況 .....	25
(1) 黒毛和種 .....	25
(2) 交雑種 .....	25
(3) 乳用種 .....	26
(4) 年間の副産物の状況 .....	26
(5) 市場出荷、相対取引の状況 .....	27
5 繁殖雌牛の種付状況 .....	29
6 飼料の給与状況 .....	30
7 敷料の使用状況 .....	32
8 経営に関する取り組み .....	33
(1) 現在行なっている経営努力 .....	33
(2) 今後 3 年間の経営展開の方向性 .....	36



## 【調査概要】

### 1 調査目的

- 農林水産省が実施している統計調査（以下、「農林水産統計」という。）においては、200頭規模以上の階層の肉用牛経営は一括して集計され、大規模経営の生産実態が十分把握されていない。そのため、大規模肉用牛経営の動向を調査し、肉用牛肥育経営の改善を図るための基礎資料の整備を図るものとする。

### 2 調査対象

- 全国の肉用牛経営者 956 戸を対象に、268 戸から回収（回収率 28.06%）。うち有効回答数は 257 戸（回収率 26.9%）。
- 標準誤差率は、黒毛和種 2.9%、交雑種 2.5%、乳用種 1.8%である。

#### 【飼養している肉牛の種類】

	計	200頭以上	200頭未満
黒毛和種	178件	122件	56件
交雑種	110件	87件	23件
乳用種	71件	47件	24件

※複数種を飼養している調査対象があり、合計値が有効回答数とは異なります。

#### 【地域別の調査対象の分布】

No.	都道府県	戸数 (n)	割合 (%)
1	北海道	43	16.8
2	青森県	10	3.9
3	岩手県	9	3.5
4	宮城県	3	1.2
5	秋田県	0	0.0
6	山形県	9	3.5
7	福島県	4	1.6
8	茨城県	13	5.1
9	栃木県	12	4.7
10	群馬県	8	3.1
11	埼玉県	10	3.9
12	千葉県	5	2.0
13	東京都	0	0.0
14	神奈川県	0	0.0
15	新潟県	5	2.0
16	富山県	0	0.0
17	石川県	0	0.0
18	福井県	1	0.4
19	山梨県	1	0.4
20	長野県	8	3.1
21	岐阜県	2	0.8
22	静岡県	1	0.4
23	愛知県	5	2.0
24	三重県	5	2.0

No.	都道府県	戸数 (n)	割合 (%)
25	滋賀県	3	1.2
26	京都府	2	0.8
27	大阪府	0	0.0
28	兵庫県	6	2.3
29	奈良県	2	0.8
30	和歌山県	0	0.0
31	鳥取県	4	1.6
32	島根県	7	2.7
33	岡山県	6	2.3
34	広島県	6	2.3
35	山口県	3	1.2
36	徳島県	6	2.3
37	香川県	1	0.4
38	愛媛県	0	0.0
39	高知県	0	0.0
40	福岡県	4	1.6
41	佐賀県	4	1.6
42	長崎県	4	1.6
43	熊本県	2	0.8
44	大分県	3	1.2
45	宮崎県	28	10.9
46	鹿児島県	9	3.5
47	沖縄県	2	0.8
	全体	256	100.0

※不明は1件。

### 3 調査方法

#### ■アンケート調査（郵送による自記入式）

※調査票を送付前に、電話にて経営状況・飼養品種・頭数の確認、調査協力依頼を行ない、了承者に対して調査票を送付した。

### 4 調査実施期間

■アンケート調査は平成28年10月～12月である。

### 5 留意事項

■平成27年度の常時飼養頭数規模別にクロス集計を行った。

■報告書中の図表の「全体」は、不明を含む回答者全体を示す。

■報告書中の「n」は、標本数（回答数）を示す（「number」の略）

■小数点以下を四捨五入して算出した場合、合計と合わないことがある。

■基本的に黒毛和種・交雑種・乳用種別に調査を実施した。ただし、1つの経営体が、黒毛和種・交雑種・乳用種の複数の品種を飼養している場合がある。

■前年度との比較については、調査戸数が異なることから、傾向として比較している。

### 6 調査実施者

■株式会社 工業市場研究所

### 7 調査項目

調査項目	
1.経営概況	1.飼養頭数(うち黒毛和種、交雑種、乳用種、その他)
	2.経営土地面積、うち耕地計(田、畑、牧草地)・うち畜産用地計(畜舎等、放牧地、採草地)
	3.農業従事者数(うち家族、雇用)
	4.家族労働時間
	5.肉牛関連の常時雇用人数・年間臨時雇用人数
	6.経営形態(畜産専業/兼業の区分、肥育専業経営/繁殖・肥育一貫経営/乳肉複合経営の区分)
	7.農業収入(うち肉用牛経営)
	8.農外収入
2.生産費	1.もと畜費
	2.飼料費(うち流通飼料費、牧草・放牧・採草費)
	3.敷料費
	4.光熱水料及び動力費
	5.その他諸材料費
	6.獣医師料及び医薬品費
	7.賃借料及び料金
	8.物件税及び公課諸負担
	9.建物費(減価償却費、修繕費)
	10.自動車費・農機具費(減価償却費、修繕費)
	11.生産管理費
	12.労働費(うち家族労働費、雇用労働費)
	13.支払利子
	14.支払地代
	15.生産費(自己資本利子・自作地地代は含まない)

調査項目	
3.その他経営実績	1.肥育牛1頭あたり平均粗収益((1)主産物価額+(2)副産物価額) (1)主産物(7.市場出荷・相対取引等の販売手法別販売価格・年間販売頭数・平均枝肉単価、1.販売時月齢、7.販売時生体重、8.増体重、9.肥育期間) (2)副産物(7.数量、1.価額) (3)肥育牛1頭あたり所得(=平均粗収益-(生産費-家族労働費))
	2.主産物販売先 (1)市場取引と相対取引の比率 (2)相対取引先の比率(7.個人、法人、家畜商、固定客、1.県内・県外)
	3.もと畜の概要(もと畜1頭あたり) (1)取得頭数・価格 (2)肥育開始時平均月齢・生体重 (3)もと畜導入価格を決定する要因 ※交雑種、乳用種については、乳用種初生牛と子牛を分けて調査すること
	4.種付けの状況
	5.飼料の給与状況
	6.敷料の使用状況
4.今後の経営意向等	1.今後の経営意向(規模拡大、現状維持、規模縮小) 2.規模拡大を実現するに当たった課題 3.現状維持または規模縮小の理由

## 【要約版】

### 1 平成 27 年度の経営概況

#### (1) 飼養頭数

■平成 27 年度の肥育牛飼養頭数規模別の経営体数の分布は、「200～300 頭未満」16.5%、「300～500 頭未満」13.6%、「500～1,000 頭未満」17.8%、「1,000～1,500 頭未満」7.4%、「1,500～2,000 頭未満」6.6%、「2,000～3,000 頭未満」6.6%、「3,000 頭以上」5.8%であった。

■品種別肥育牛飼養頭数規模別経営体の割合は、黒毛和種が「200 頭以上」で 68.5%、交雑種が「200 頭以上」で 79.1%、乳用種が「200 頭以上」で 66.2%となった。平均頭数は、黒毛和種が昨年度：446.4 頭、今年度：454.1 頭。交雑種が昨年度：649.1 頭、今年度：712.6 頭。乳用種が昨年度：701.0 頭、今年度：722.9 頭。調査対象一戸あたりの飼養頭数は拡大した。

#### (2) 経営土地面積、畜産用地

■肥育牛飼養頭数規模別の 1 経営体当たりの経営土地面積（平均）は、200 頭以上の経営体が 38.5ha、畜産用地は、200 頭以上の経営体が 47.1ha であった。

#### (3) 経営形態

■畜産専業・兼業の状況は、200 頭以上の経営体では「畜産専業」73.7%、「複合経営」12.0%、「兼業経営」12.6%であった。

■経営形態は、200 頭以上の経営体では、「肥育専業経営」が 51.4%、「繁殖・肥育一貫経営」が 18.1%、「乳肉複合経営」が 5.1%、「育成・肥育経営」が 20.3%等となっている。飼養規模の大きい経営体の方が肥育専業経営の割合が高い傾向にある。

#### (4) 売上高

■農業経営体全体の売上高は、200 頭以上の経営体では、平均 7 億 3,100 万円となっている。昨年度の 200 頭以上の経営体の平均売上高 5 億 6,400 万円と比較すると、増加した。枝肉価格の上昇が背景にあると思われる。

■肉用牛関連の売上高は、200 頭以上の経営体では、平均 6 億 600 万円となっている。昨年度の 200 頭以上の経営体の平均売上高 4 億 6,400 万円と比較すると、増加した。枝肉価格の上昇が背景にあると思われる。

### (5) 労働力

- 肉用牛関連に従事する家族労働力は、200 頭以上の経営体では平均 3.0 人であった。
- 肉用牛関連の正社員は、200 頭以上の経営体では平均 7.0 人であった。
- 肉用牛関連の非正社員は、200 頭以上の経営体では平均 3.1 人であった。
- 肉用牛関連作業における 1 日当たりの平均労働時間は、200 頭以上の経営体では 7.6 時間であった。
- 従業員の労働時間の長さについての意識は、全体で「とても長い方だ」が 1.8%、「まあ長い方だ」が 18.7%、「どちらともいえない」が 54.2%、「短い方だ」が 25.3%となり、経営体の規模による大きな差異は見られない。

## 2 生産費（肥育牛 1 頭あたり）

- 品種別に見ると、200 頭以上の経営体では、黒毛和種 1,072,392 円（昨年度 954,286 円）、交雑種 740,816 円（昨年度 691,664 円）、もと畜費等の高騰の影響を受けて、生産費は上昇傾向にあり、黒毛和種の実産費は 1 頭あたり 100 万円台に達している。乳用種 467,673 円（昨年度 470,904 円）となっている。

### <生産費（肥育牛 1 頭あたり）> 200 頭以上の経営体

	もと畜費 (円)	購入飼料費 (円)	牧草・放牧・採草費 (円)	敷料費 (円)	光熱水道力費 (円)	消耗諸材料費 (円)	獣医師料及び医薬品費 (円)	賃借料及び料金 (円)	物件税及び公課諸負担 (円)	建物費 (円)	自動車費、農機具費 (円)	生産管理費 (円)	労働費 (円)	支払利子 (円)	支払地代 (円)	副産物価額 (円)	生産費 (円)
黒毛和種	596,839	278,113	34,143	13,544	13,757	7,702	12,906	9,909	7,674	24,417	12,464	8,487	41,206	12,867	7,282	8,917	1,072,392
交雑種	308,102	252,763	31,707	12,253	12,417	6,930	11,873	9,197	7,249	21,948	11,436	8,145	37,681	11,676	6,835	9,395	740,816
乳用種	155,409	207,471	13,205	11,688	7,863	3,794	9,271	5,552	4,079	12,088	8,303	3,262	22,553	6,395	3,994	7,255	467,673

## 3 もと畜の導入状況

- もと畜の年間外部導入頭数は、「黒毛和種」が 315 頭（昨年度 315 頭）、「交雑種（初生牛）」が 489 頭（昨年度 462 頭）、「交雑種（子牛）」が 619 頭（昨年度 429 頭）、「乳用種（初生牛）」が 723 頭（昨年度 590 頭）、「乳用種（子牛）」が 922 頭（昨年度 602 頭）となっている。もと畜の導入頭数が増えたのは、調査対象一戸あたりの規模拡大が背景にあると思われる。
- 1 頭当たりの導入価格は、「黒毛和種」が 582,972 円（昨年度 490,163 円）、「交雑種（初生牛）」が 211,566 円（昨年度 162,835 円）、「交雑種（子牛）」が 304,670 円（昨年度 263,080 円）、「乳用種（初

生牛)」が59,528円（昨年度46,440円）、「乳用種（子牛）」が154,544円（昨年度128,517円）、である。繁殖雌牛の減少によって、もと畜価格が高騰したことが背景にあると思われる。

■もと畜を外部から導入する際に重視する点は、黒毛和種は、「血統」「価格」「健康状態」「体型の良し悪し」「発育状態」が上位となっている。交雑種は、「健康状態」「価格」「発育状態」「血統」「体型の良し悪し」、乳用種（初生牛）は、「健康状態」「価格」「発育状態」「体型の良し悪し」が上位であり、事故リスクを避けるため、昨年度よりも「健康状態」「発育状態」「体型の良し悪し」を重視する傾向が強まったと思われる。乳用種（子牛）は、「健康状態」「発育状態」「体型の良し悪し」「価格」が上位となっている。

#### 4 肥育牛の出荷状況

■黒毛和種の年間出荷頭数は、200頭以上の経営体で平均459頭である。枝肉単価の平均は、市場出荷で2,351円/kg、相対取引で2,282円/kgとなっており、市場出荷と相対取引の価格差はほとんど見られない。

■交雑種の年間出荷頭数は、200頭以上の経営体で平均767頭である。枝肉単価の平均は、市場出荷で1,449円/kg、相対取引で1,494円/kgとなっている。黒毛和種と同様に、交雑種でも市場出荷と相対取引では、大きな価格差は生じていない。

■乳用種の年間出荷頭数は、200頭以上の経営体で平均997頭である。枝肉単価の平均は、市場出荷で972円/kg、相対取引で995円/kgとなっており、価格差はほとんど見られない。

■年間の副産物（きゅう肥）の状況は、200頭以上の経営体で、平均年間販売数量が1,831トン、金額が741万円となっている。

■市場出荷の実施は、200頭以上の経営体で平均4.6割、相対取引の実施は、平均5.5割となっている。飼養規模の大きな経営体は、相対取引の実績が多い。相対取引の相手先は「法人」が8割であり、地域も「県内」が多い。

#### 5 繁殖雌牛の種付状況

■黒毛和種の主な種付方法は「人工授精」であり、受胎率は78.5%となっている。

■乳用種の主な種付方法は「人工授精」であり、受胎率は50.8%となっている。交雑種の種付方法は「受精卵移植」であり、受胎率は68.7%となっている。

## 6 飼料の給与状況

- 給与している飼料は、200 頭以上の経営体では「成畜用配合飼料」、「稲わら」、「大麦」、「とうもろこし」、「ふすま」、「イタリアンライグラス」等が上位となっている。
- 肥育牛の給与状況（1 日あたりの 1 頭への給与量）を見ると、肥育前期では 8.1kg、肥育中期では 9.9kg、仕上げ期では 9.7kg となっている。

## 7 敷料の使用状況

- 敷料については、「おが粉」が圧倒的に多く、200 頭以上の経営体の使用率は 89.0%となっている。ただし、近年は住宅着工件数の減少や輸入製材の増加等により、「おが粉」は入手しづらい状況にあり、将来的には、他の敷料の使用が増加するケースも考えられる。

## 8 取り組んでいる経営努力

- 200 頭以上の経営体が現在行なっている経営努力は、「低価格な飼料調達に努めている（65.3%）」「機械化を積極的に進めている（56.0%）」「もと畜を低コストで導入する（42.0%）」「従業員の安全を確保（40.0%）」「低価格の敷料調達に努めている（36.0%）」等が多い。
- 今後 3 年間の経営展開について、200 頭以上の経営体では「増頭」が 30.6%、「現状維持」が 63.9% であり、「減少」「生産しない」が 5.6%となっている。
- 増頭する理由は、「出荷先があるため」がもっとも多く、約 4 割を占めている。規模拡大への課題について、200 頭以上の経営体では「資金繰り（69.8%）」「施設・機械の更新・拡大（66.0%）」「子牛の導入価格・販売価格の動向（58.5%）」「肥育牛の販売価格の動向（58.5%）」「土地面積の拡大（52.8%）」「後継者・人材確保、育成（43.4%）」等である。昨年度は、「後継者・人材確保、育成」が 200 頭以上の経営体で 30.8%であったが、今年度は 43.4%と増加。産業界全体で人材難が問題となっているが、肉用牛経営も後継者問題・人材不足の問題となっている。
- 一方、経営規模を「現状維持」「減少する」理由は、「もと牛価格の高騰」が圧倒的に多く、60%以上を占めている。

【詳細版】

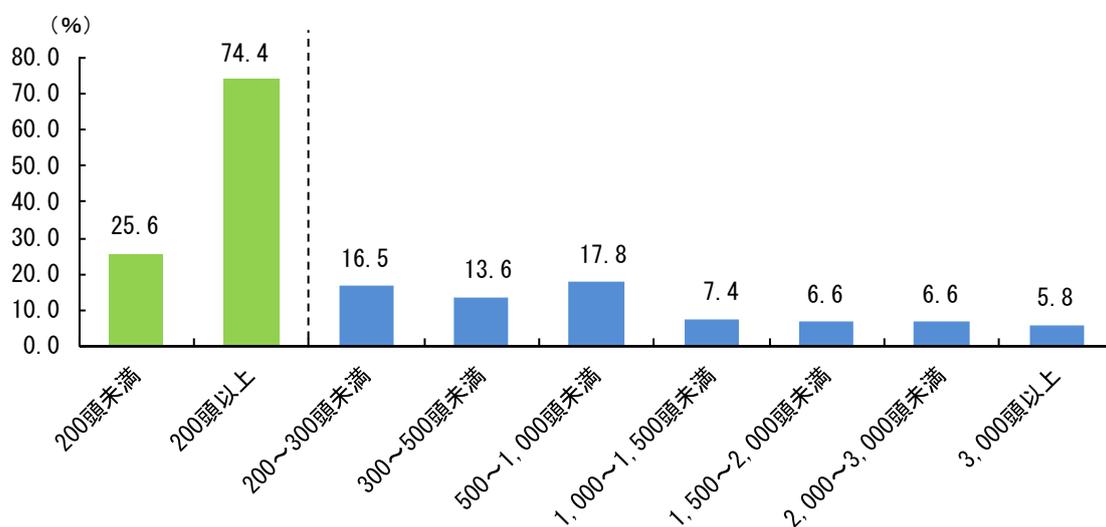
1 平成 27 年度の経営概況

(1) 飼養頭数

①肥育牛飼養頭数規模別経営体数の分布

■平成 27 年度の肥育牛飼養頭数規模別の経営体数の分布は、「200 頭未満」が 25.6%、「200 頭以上」が 74.4%となった。内訳を見ると、「200～300 頭未満」16.5%、「300～500 頭未満」13.6%、「500～1,000 頭未満」17.8%、「1,000～1,500 頭未満」7.4%、「1,500～2,000 頭未満」6.6%、「2,000～3,000 頭未満」6.6%、「3,000 頭以上」5.8%であった（図 1）。

図 1 肥育牛飼養頭数規模別経営体数の分布

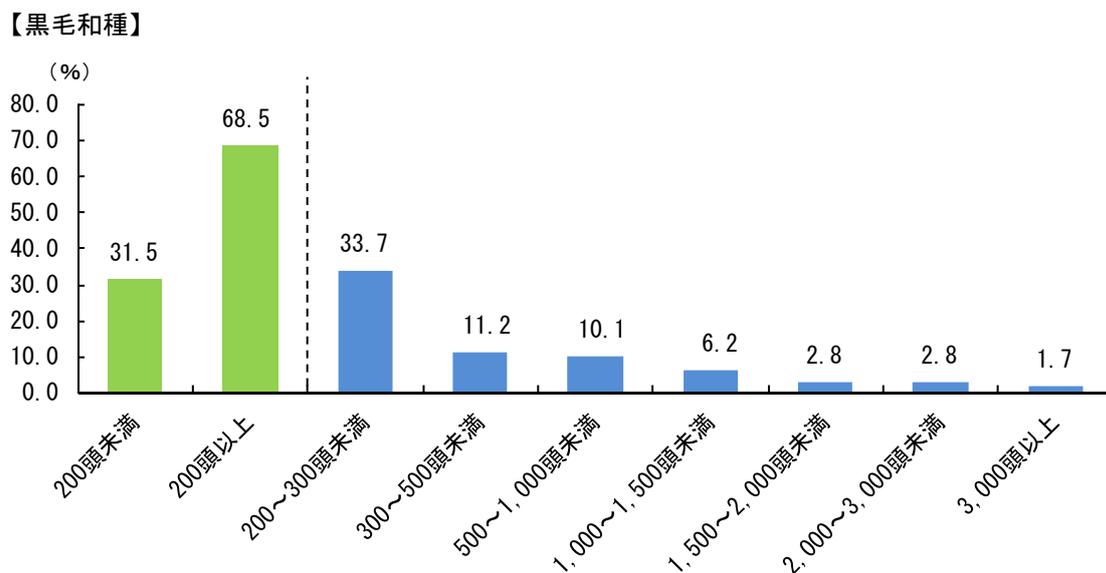


②品種別肥育牛飼養頭数規模別経営体数の割合

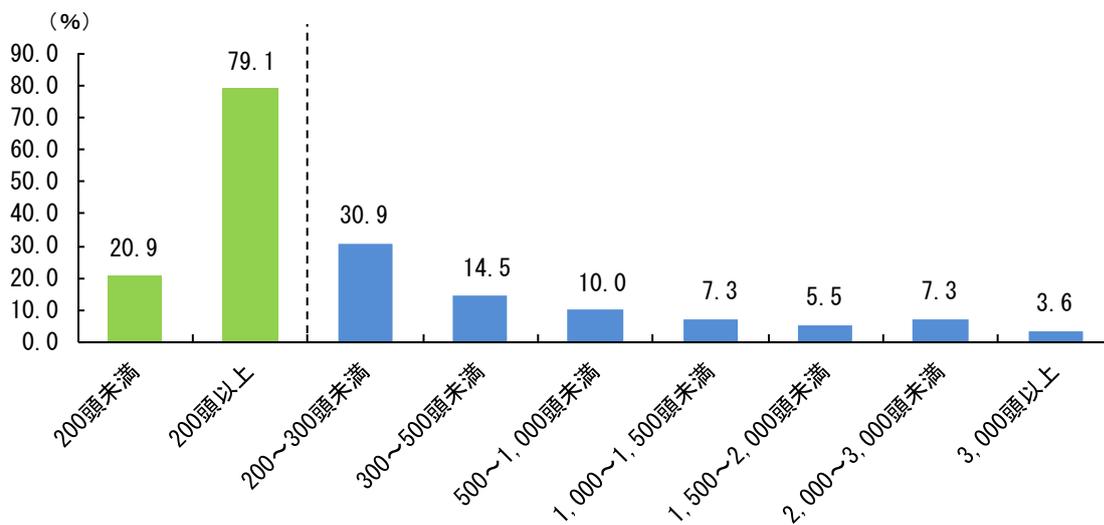
■品種別肥育牛飼養頭数規模別経営体数の割合をみると、黒毛和種は「200 頭未満」が 31.5%、「200 頭以上」が 68.5%、「交雑種」は「200 頭未満」が 20.9%、「200 頭以上」が 79.1%、乳用種は「200 頭未満」が 33.8%、「200 頭以上」が 66.2%であった（図 2）。

■昨年度との平均頭数の比較では、黒毛和種は昨年度：446.4 頭、今年度：454.1 頭。交雑種は昨年度：649.1 頭、今年度：712.6 頭。乳用種は昨年度：701.0 頭、今年度：722.9 頭となり、今年度は調査対象一戸あたりの飼養頭数が拡大した。

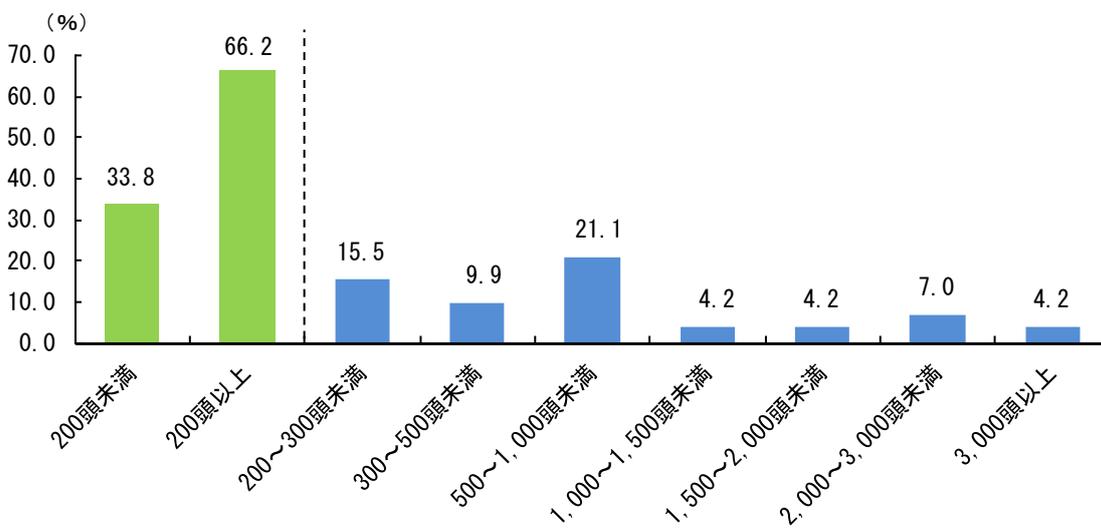
図 2 品種別肥育牛飼養頭数規模別経営体数の割合



【交雑種】



【乳用種】



## (2) 経営土地面積、畜産用地

■肥育牛飼養頭数規模別の 1 経営体当たりの経営土地面積は、200 頭以上の経営体では 38.5ha。畜産用地は 200 頭以上の経営体では 47.1ha であった。畜産用地、特に畜舎については、飼養頭数の規模に比例して用地の規模も拡大する（表 1）。規模拡大にあたっては、近隣に適切な用地を確保することが必要であると言えよう。

表 1 経営土地面積、畜産用地

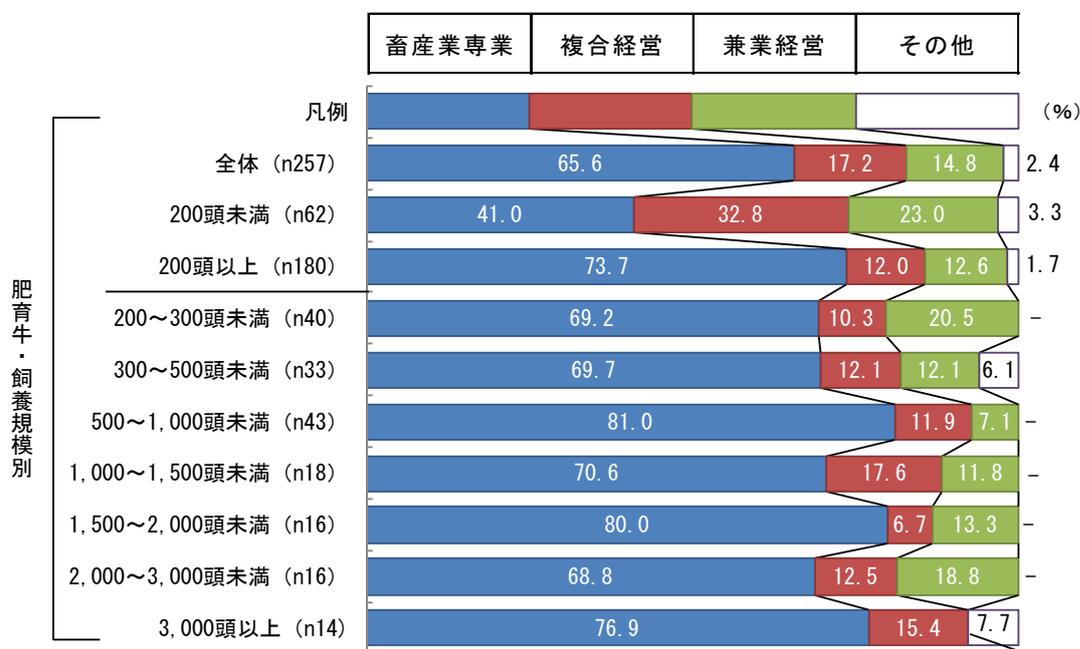
【全体】		経営土地			畜産用地			(ha)
		田	畑	牧草地	畜舎	その他		
全体		33.6	5.1	11.8	16.7	38.9	1.1	37.7
肥育牛・飼養規模別	200頭未満・計	16.9	3.4	9.0	4.6	24.9	0.4	24.5
	200頭以上・計	38.5	6.0	13.0	19.5	47.1	1.4	45.6
	200～300頭未満	19.2	4.8	2.0	12.5	35.4	0.5	34.9
	300～500頭未満	17.0	6.0	8.8	2.2	28.5	0.9	27.6
	500～1,000頭未満	48.2	8.8	15.2	24.3	30.0	1.3	28.7
	1,000～1,500頭未満	46.5	6.3	11.2	29.0	85.0	1.8	83.2
	1,500～2,000頭未満	28.5	2.6	14.2	11.7	30.7	2.2	28.5
	2,000～3,000頭未満	56.8	8.1	27.3	21.5	23.2	3.8	19.4
3,000頭以上	57.9	0.6	28.4	28.9	145.2	4.1	141.1	

(3) 経営形態

①畜産専業・兼業の状況

■畜産専業・兼業の状況は、200 頭未満の経営体では「畜産業専業」が41.0%、「複合経営」が32.8%、「兼業経営」が23.0%であった。200 頭以上の経営体では、「畜産業専業」が73.7%、「複合経営」が12.0%、「兼業経営」が12.6%であった（図3）。飼養規模が大きい経営体の方が、専業経営の割合が高くなっている。

図 3 畜産専業・兼業の状況

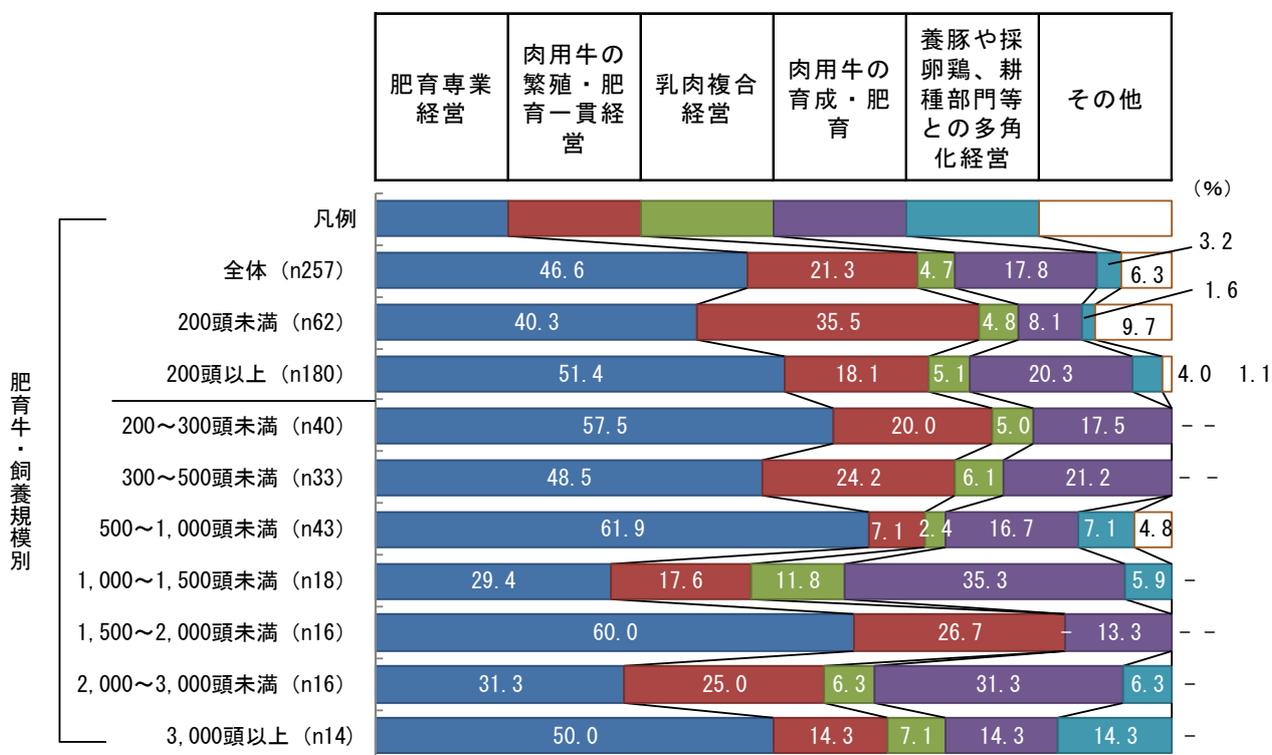


※「複合経営」は“畜産+稲作等作物”、「兼業経営」は“畜産+他産業/肉の加工、販売、飲食店経営”を示している。

②肉用牛経営の形態

■肉用牛経営の形態は、200 頭未満の経営体では、「肥育専門経営」が40.3%、「繁殖・肥育一貫経営」が35.5%、「乳肉複合経営」が4.8%、「育成・肥育」が8.1%等となっている。200 頭以上の経営体では、「肥育専門経営」が51.4%、「繁殖・肥育一貫経営」が18.1%、「乳肉複合経営」が5.1%、「育成・肥育」が20.3%等となっている。200 頭以上の経営体の方が肥育専門経営の割合が高くなっている（図4）。

図 4 経営形態



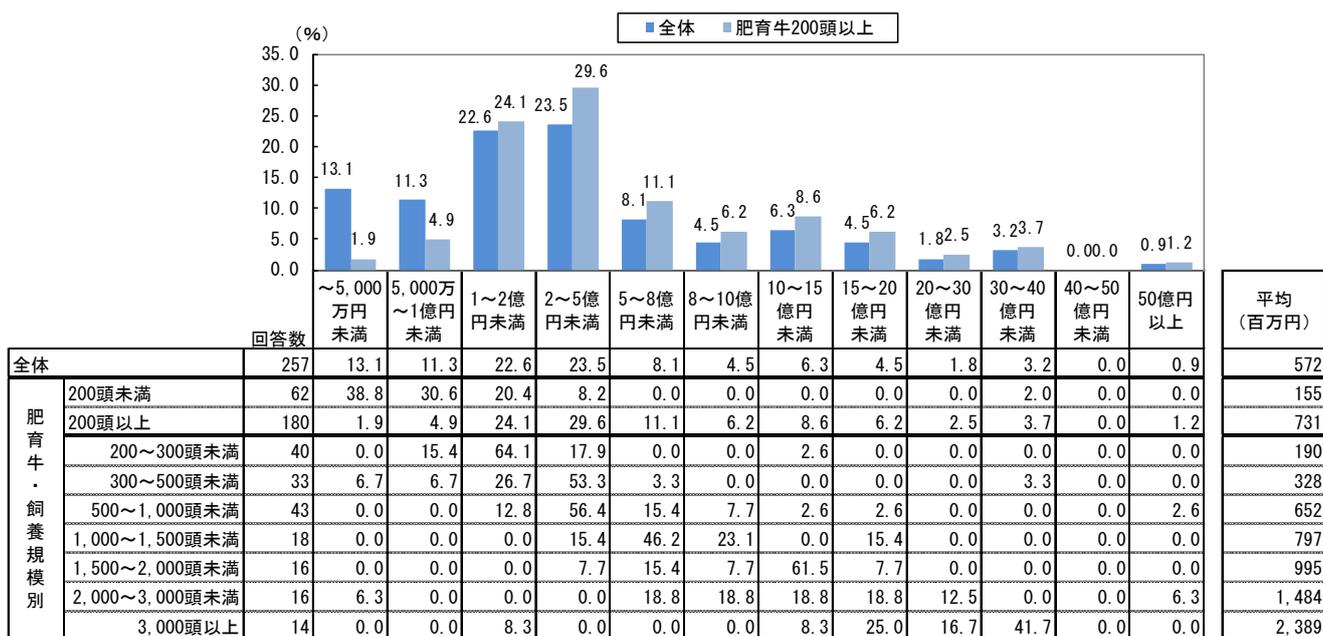
(4) 売上高

① 農業経営体全体

■ 農業経営体全体の売上高（平成 27 年度）は、200 頭未満の経営体は「～5,000 万円未満」（38.8%）が最も多く、平均 1 億 5,500 万円であった。200 頭以上の経営体は「1～2 億円未満」が 24.1%、「2～5 億円未満」（29.6%）が多く、平均 7 億 3,100 万円であった（図 5）。昨年度の 200 頭以上の経営体の平均売上高 5 億 6,400 万円と比較すると、増加している。枝肉価格の上昇が背景にあると思われる。

■ 肥育牛飼養頭数規模に比例して、売上は多くなる傾向にある。2,000 頭以上の経営体では、10 億円を超える売上を計上しているところもある。

図 5 農業経営体全体の売上高



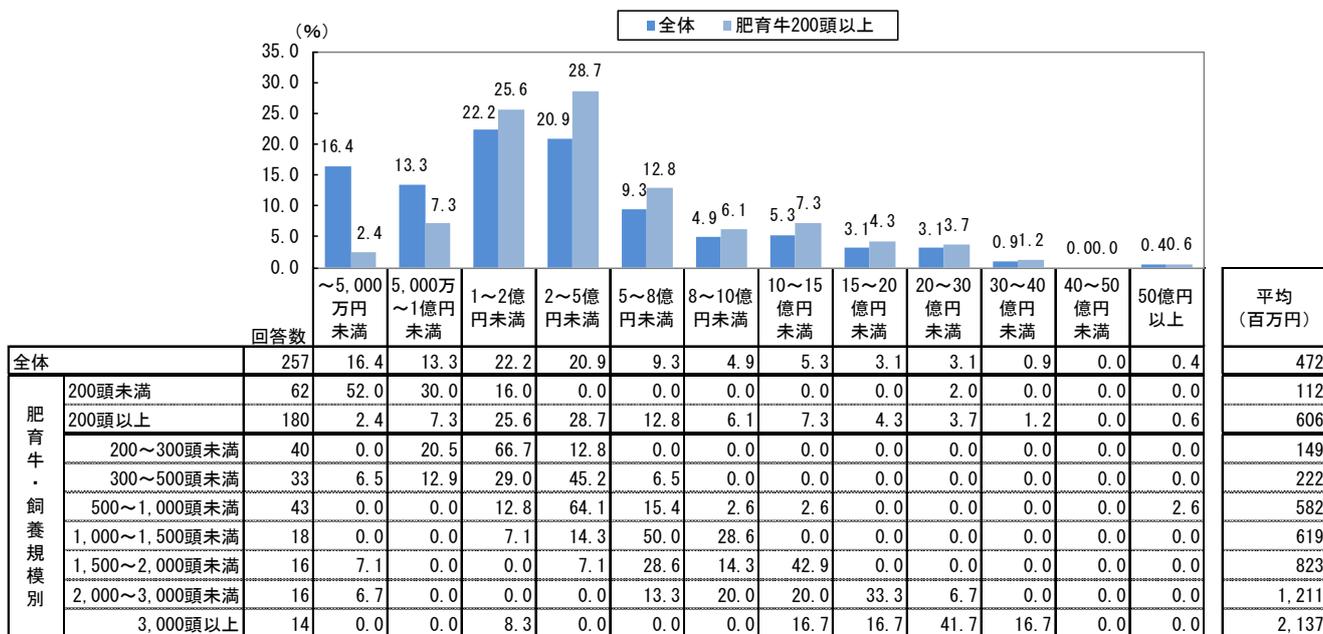
回答数	売上高区分 (%)													平均 (百万円)	
	～5,000 万円未満	5,000 万～1 億円未満	1～2 億円未満	2～5 億円未満	5～8 億円未満	8～10 億円未満	10～15 億円未満	15～20 億円未満	20～30 億円未満	30～40 億円未満	40～50 億円未満	50 億円以上			
全体	257	13.1	11.3	22.6	23.5	8.1	4.5	6.3	4.5	1.8	3.2	0.0	0.9	572	
肥育牛・飼養規模別	200頭未満	62	38.8	30.6	20.4	8.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	155	
	200頭以上	180	1.9	4.9	24.1	29.6	11.1	6.2	8.6	6.2	2.5	3.7	0.0	1.2	731
	200～300頭未満	40	0.0	15.4	64.1	17.9	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	190	
	300～500頭未満	33	6.7	6.7	26.7	53.3	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	328	
	500～1,000頭未満	43	0.0	0.0	12.8	56.4	15.4	7.7	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0	652	
	1,000～1,500頭未満	18	0.0	0.0	0.0	15.4	46.2	23.1	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	797	
	1,500～2,000頭未満	16	0.0	0.0	0.0	7.7	15.4	7.7	61.5	7.7	0.0	0.0	0.0	995	
	2,000～3,000頭未満	16	6.3	0.0	0.0	0.0	18.8	18.8	18.8	18.8	12.5	0.0	0.0	6.3	1,484
3,000頭以上	14	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	25.0	16.7	41.7	0.0	0.0	2,389	

②肉用牛関連

■肉用牛関連の売上高は、200 頭未満の経営体は「～5,000 万円未満」(52.0%) が最も多く、平均 1 億 1,200 万円であった。200 頭以上の経営体は「1～2 億円未満」(25.6%) 「2～5 億円未満」(28.7%) が多く、平均 6 億 600 万円であった。昨年度の 200 頭以上の経営体の平均売上高 4 億 6,400 万円と比較すると、増加している。枝肉価格の上昇が背景にあると思われる。

■農業経営全体と同様に、肥育牛飼養頭数規模に比例して大きくなる傾向にある(図 6)。3,000 頭以上の経営体は、売上高 20 億円に迫るところもある。

図 6 肉用牛関連の売上高

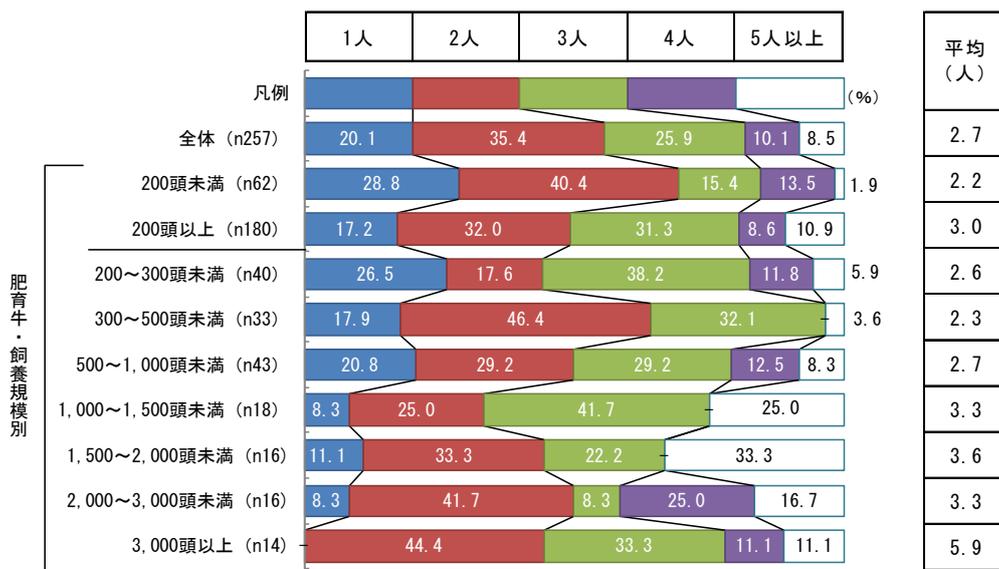


(5) 労働力

① 家族労働力

■ 肥育牛飼養頭数規模別では、200 頭未満の経営体は平均 2.2 人、200 頭以上の経営体は平均 3.0 人であった (図 7)

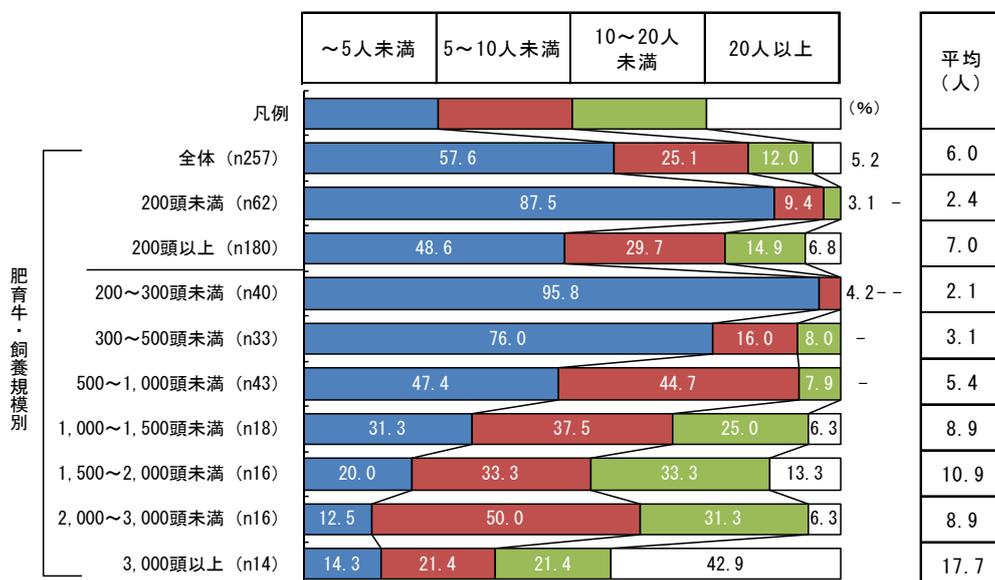
図 7 肉用牛関連・家族労働力



② 正社員 (常時雇用者)

■ 肉用牛関連に従事する正社員は、200 頭未満の経営体は平均 2.4 人、200 頭以上の経営体は平均 7.0 人であった (図 8)。1,500~2,000 頭未満の経営体では平均 10.9 人、3,000 頭以上の経営体では平均 17.7 人となっており、平均で 10 人を超えるケースもある。

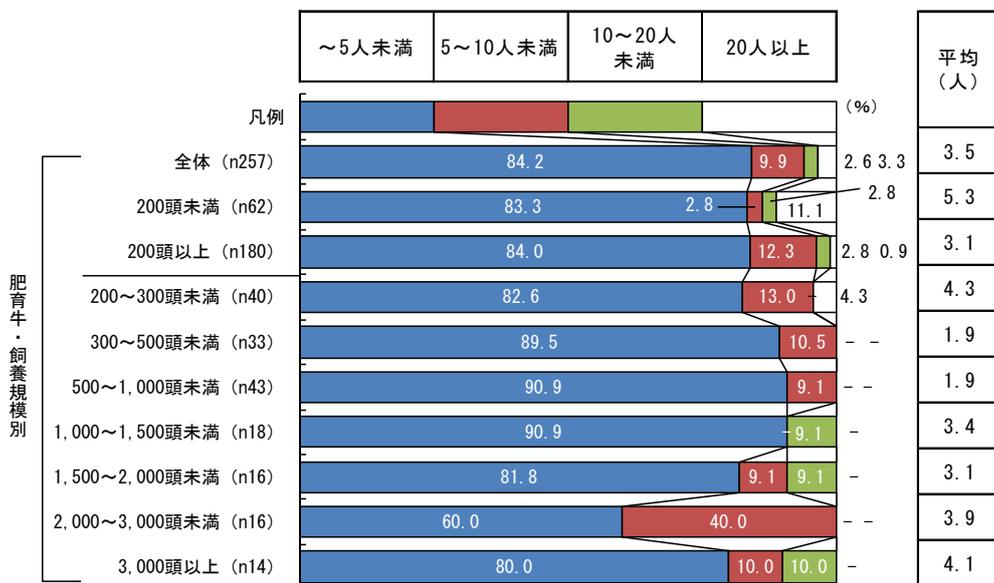
図 8 肉牛関連・正社員



③非正社員（臨時雇用者）

■肉用牛関連の非正社員は、200 頭未満の経営体は平均 5.3 人、200 頭以上の経営体は平均 3.1 人であった（図 9）。

図 9 肉牛関連・非正社員



④肉用牛関連作業における家族の1日当たりの労働時間

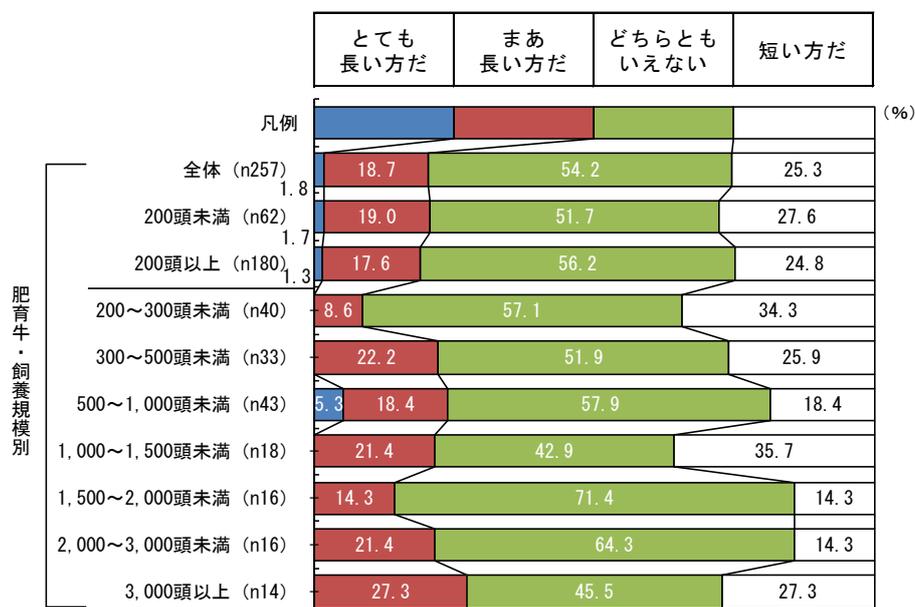
■肉用牛関連作業における家族の1日当たりの平均労働時間は、全体で「7.3 時間」となっている。肥育牛飼養頭数規模別では、200 頭未満の経営体では「6.5 時間」、200 頭以上の経営体では「7.6 時間」であった（表 2）。

■また、従業員の労働時間の長さについての意識を質問したところ、全体で「とても長い方だ」が1.8%、「まあ長い方だ」が 18.7%、「どちらともいえない」が 54.2%、「短い方だ」が 25.3%となった。経営体の規模による大きな差異は見られず、「どちらともいえない」が半数以上を占める結果となった。（図 10）。

表 2 肉用牛関連作業における家族の労働時間

		(時間/日)
全体		7.3
肥育牛・飼養規模別	200頭未満	6.5
	200頭以上	7.6
	200～300頭未満	7.2
	300～500頭未満	7.1
	500～1,000頭未満	8.3
	1,000～1,500頭未満	7.7
	1,500～2,000頭未満	7.5
	2,000～3,000頭未満	7.7
3,000頭以上	8.4	

図 10 従業員の労働時間の長さについての意識



## 2 生産費（肥育牛1頭当たり）

■品種別に見ると、肥育牛200頭以上の経営体では、黒毛和種1,072,392円、交雑種740,816円、乳用種450,902円となっている（表3～5）。

■サンプル調査ということから、必ずしも生産費構造のモデルを示しているものではないが、近年のものと畜費高騰を反映してか、本調査でも生産費は黒毛和種においては100万円超となっている。

■生産費の中でもっとも占有率が高いのは、「もと畜費」であり、構成比を算出すると、200頭以上では黒毛和種が55.7%、交雑種が41.6%、乳用種では34.5%を占めている。

表3 黒毛和種の実生産費

	n数	もと畜費 (円)	購入飼料費 (円)	牧草・放牧・採草費 (円)	敷料費 (円)	光熱水道力費 (円)	消耗諸材料費 (円)	獣医師料及び医薬品費 (円)	賃借料及び料金 (円)	物件税及び公課諸負担 (円)	建物費 (円)	自動車費、農機具費 (円)	生産管理費 (円)	労働費 (円)	支払利子 (円)	支払地代 (円)	副産物価額 (円)	生産費 (円)	
全体	178	582,972	275,442	32,880	13,744	15,221	8,637	14,353	11,858	9,536	25,161	13,581	8,613	42,871	12,994	7,505	9,909	1,065,459	
肥育牛・飼養規模別	200頭未満	56	518,262	272,054	29,354	14,456	20,653	12,094	19,781	20,490	16,341	28,393	17,490	9,091	50,143	13,655	8,211	14,955	1,035,512
	200頭以上	122	596,839	278,113	34,143	13,544	13,757	7,702	12,906	9,909	7,674	24,417	12,464	8,487	41,206	12,867	7,282	8,917	1,072,392
	200～300頭未満	60	618,755	323,055	24,833	13,204	15,455	9,852	13,284	15,427	12,596	26,110	20,104	11,289	41,773	12,547	9,200	6,807	1,160,677
	300～500頭未満	20	579,865	282,764	35,378	9,200	9,858	6,355	10,861	11,150	8,200	23,470	10,585	11,038	35,500	13,888	12,093	14,557	1,045,647
	500～1,000頭未満	18	633,225	265,775	50,417	16,710	11,792	7,728	11,531	10,545	5,506	22,171	8,874	9,068	47,683	11,048	4,500	7,743	1,108,832
	1,000～1,500頭未満	11	533,230	288,471	24,317	20,460	17,130	6,300	19,210	12,250	5,557	18,144	12,686	7,800	60,791	7,822	3,750	10,420	1,027,498
	1,500～2,000頭未満	5	504,409	250,154	34,611	15,075	23,000	12,525	14,777	7,645	6,100	35,769	9,264	6,756	40,007	26,027	5,580	19,350	972,349
	2,000～3,000頭未満	5	674,000	280,151	24,944	10,831	12,543	3,710	12,579	5,391	6,255	22,433	6,860	3,613	28,627	13,331	4,517	5,033	1,104,750
3,000頭以上	3	503,157	230,649	20,450	9,191	10,800	3,540	12,978	4,050	3,057	21,633	12,971	1,333	27,480	5,478	5,067	17,900	853,934	

表4 交雑種の実生産費

	n数	もと畜費 (円)	購入飼料費 (円)	牧草・放牧・採草費 (円)	敷料費 (円)	光熱水道力費 (円)	消耗諸材料費 (円)	獣医師料及び医薬品費 (円)	賃借料及び料金 (円)	物件税及び公課諸負担 (円)	建物費 (円)	自動車費、農機具費 (円)	生産管理費 (円)	労働費 (円)	支払利子 (円)	支払地代 (円)	副産物価額 (円)	生産費 (円)	
全体	110	304,670	248,371	30,688	12,631	14,019	7,875	13,405	10,995	9,142	22,883	12,572	8,152	39,245	11,780	6,952	9,237	744,142	
肥育牛・飼養規模別	200頭未満	23	246,808	239,084	27,842	13,976	19,963	11,370	19,147	18,871	16,066	26,945	16,510	8,182	46,073	12,320	7,321	14,800	715,678
	200頭以上	87	308,102	252,763	31,707	12,253	12,417	6,930	11,873	9,197	7,249	21,948	11,436	8,145	37,681	11,676	6,835	9,395	740,816
	200～300頭未満	34	298,173	298,206	22,308	12,321	14,061	9,007	12,087	14,020	11,996	23,214	18,585	10,328	39,238	11,384	8,433	14,257	789,105
	300～500頭未満	16	304,600	259,501	28,744	8,457	8,821	5,975	10,370	11,471	8,014	21,878	10,374	10,619	32,925	13,544	11,950	5,243	742,000
	500～1,000頭未満	11	246,282	245,524	48,894	15,137	10,900	7,113	11,043	9,627	5,258	19,723	7,996	9,921	43,726	9,956	3,806	3,683	691,221
	1,000～1,500頭未満	8	378,911	241,480	21,467	17,140	14,690	4,844	16,390	10,833	4,771	14,944	11,186	6,286	51,827	6,556	2,900	13,725	790,501
	1,500～2,000頭未満	6	334,443	237,120	36,889	14,175	20,979	10,942	14,054	6,864	5,567	33,723	8,773	6,256	37,907	23,318	6,340	2,680	794,668
	2,000～3,000頭未満	8	318,575	234,439	21,378	9,608	11,071	3,230	11,179	4,818	5,555	20,058	5,960	3,025	25,180	11,762	4,233	3,300	686,770
3,000頭以上	4	364,592	209,127	16,175	8,073	9,482	3,000	11,122	3,550	2,800	18,222	10,300	1,200	24,860	4,900	4,000	21,367	670,036	

表 5 乳用種の実産費

	n数	もと畜費 (円)	購入飼料費 (円)	牧草・放牧・採草費 (円)	敷料費 (円)	光熱水道力費 (円)	消耗諸材料費 (円)	獣医師料及び医薬品費 (円)	賃借料及び料金 (円)	物件税及び公課諸負担 (円)	建物費 (円)	自動車費、農機具費 (円)	生産管理費 (円)	労働費 (円)	支払利子 (円)	支払地代 (円)	副産物価額 (円)	生産費 (円)	
全体	71	154,544	205,126	16,591	9,416	9,651	5,310	9,246	7,766	6,073	13,156	8,889	5,205	23,587	7,759	5,108	6,848	480,579	
肥育牛・飼養規模別	200頭未満	24	150,000	198,825	20,367	13,888	12,217	9,687	12,153	8,382	7,014	15,506	6,290	29,833	7,492	7,290	12,775	496,322	
	200頭以上	47	155,409	207,471	13,205	11,688	7,863	3,794	9,271	5,552	4,079	12,088	8,303	3,262	22,553	6,395	3,994	7,255	467,673
	200～300頭未満	11	155,026	227,064	13,575	10,920	12,040	5,080	9,756	3,000	8,933	16,422	17,300	29,844	6,940	10,267	3,250	535,717	
	300～500頭未満	7	144,132	215,937	7,200	10,675	6,717	3,400	9,967	5,800	4,440	14,460	12,625	225	38,133	4,600	3,750	18,267	463,794
	500～1,000頭未満	15	156,726	205,065	14,529	14,220	6,642	4,000	7,373	4,767	3,000	10,317	3,800	3,222	20,208	6,350	2,050	8,343	453,925
	1,000～1,500頭未満	3	145,395	201,150	9,100	15,350	5,000	1,050	21,850	17,850	850	1,050	3,450	1,250	11,600	1,600	300	100	436,745
	1,500～2,000頭未満	3	157,137	198,671	25,600	15,650	4,450	2,050	7,150	6,650	1,600	9,100	2,800	250	15,400	7,750	200	13,850	440,608
	2,000～3,000頭未満	5	157,662	192,217	8,450	8,425	6,475	1,333	11,800	6,175	1,300	8,600	4,450	200	17,375	10,567	700	1,567	434,161
3,000頭以上	3	162,312	188,954	23,300	3,800	6,800	5,200	2,450	1,950	2,300	13,050	13,400	800	8,900	900	4,350	450	438,016	

※生産費の合計には、副産物の価額は含まれていない。

## 3 もと畜の導入状況

## (1) 年間もと畜導入状況

■もと畜の年間外部導入頭数は、「黒毛和種」が315頭（昨年度315頭）、「交雑種（初生牛）」が489頭（昨年度462頭）、「交雑種（子牛）」が619頭（昨年度429頭）、「乳用種（初生牛）」が723頭（昨年度590頭）、「乳用種（子牛）」が922頭（昨年度602頭）である。調査対象一戸あたりの規模拡大が、もと畜頭数増加の背景にあると思われる。

■1頭当たりの導入価格は、「黒毛和種」が582,972円（昨年度490,163円）、「交雑種（初生牛）」が211,566円（昨年度162,835円）、「交雑種（子牛）」が304,670円（昨年度263,080円）、「乳用種（初生牛）」が59,528円（昨年度46,440円）、「乳用種（子牛）」が154,544円（昨年度128,517円）である。肉用繁殖牛の減少によって、もと畜価格が高騰したことが背景にあると思われる。

■導入時の1頭当たりの平均体重は、「黒毛和種」が270.4kg、「交雑種（初生牛）」が64.4kg、「交雑種（子牛）」が262.5kg、「乳用種（初生牛）」が60.9kg、「乳用種（子牛）」が296.5kgである（表6）。

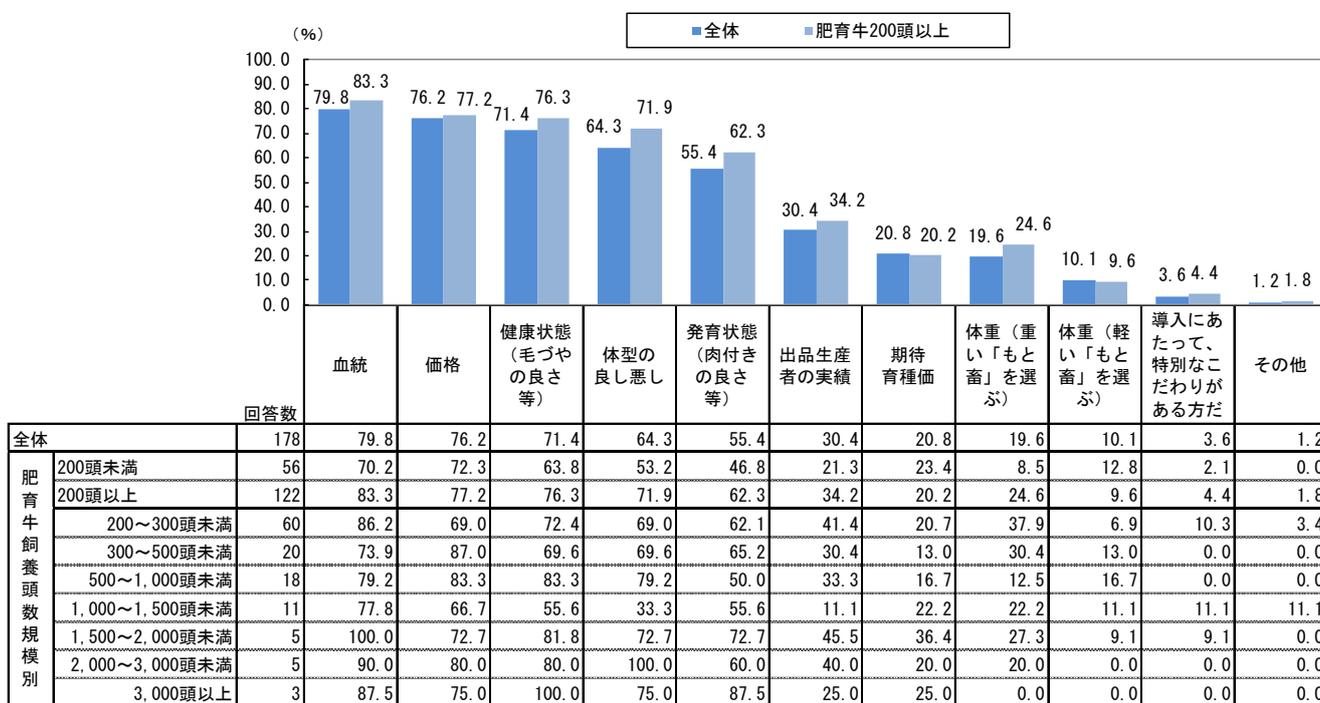
表6 もと畜の年間の導入状況

		もと畜の外部 導入頭数 (頭)	1頭あたりの 平均取得価格 (円)	1頭あたりの 平均生体重 (kg)	肥育開始時の 1頭あたりの 平均月齢 (ヶ月)	肥育開始時の 1頭あたりの 平均生体重 (kg)
黒毛和種		315	582,972	270.4	9.1	279.0
交雑種	初生牛	489	211,566	64.4	9.8	312.0
	子牛	619	304,670	262.5	8.4	300.3
乳用種	初生牛	723	59,528	60.9	6.7	302.6
	子牛	922	154,544	296.5	7.3	303.9

(2) もと畜を外部から導入する際の重視点

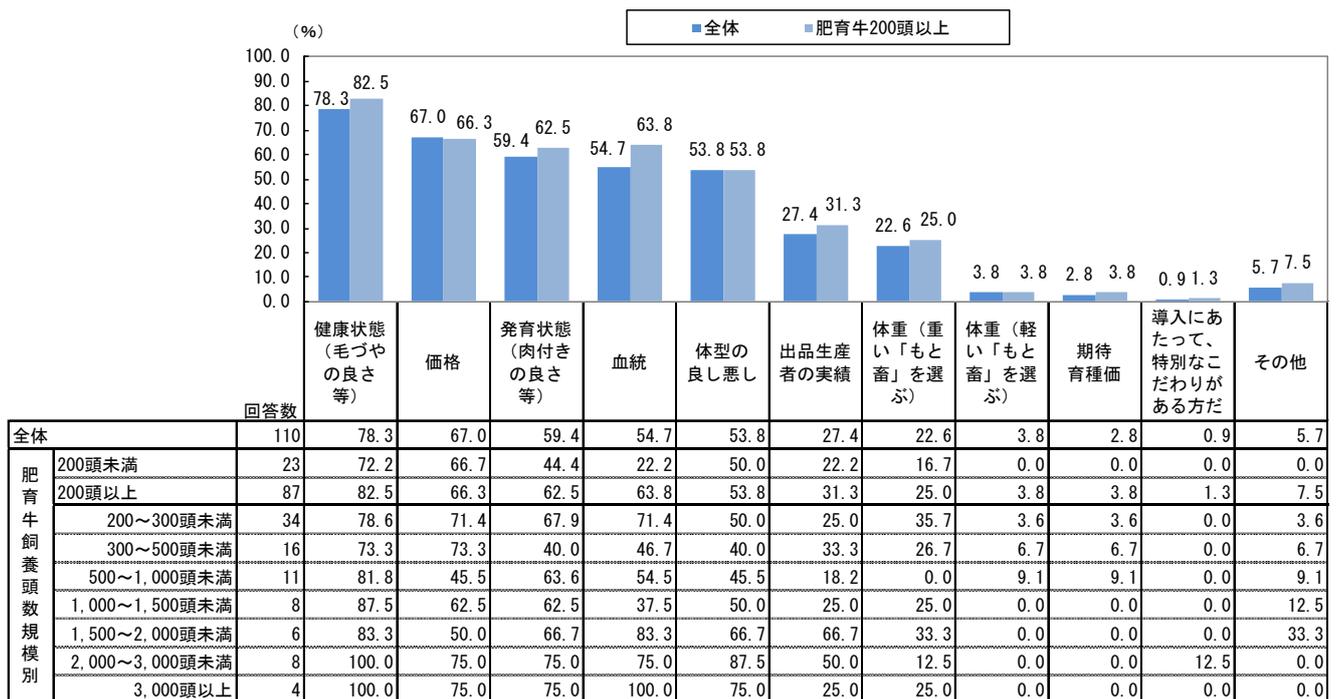
■もと畜（黒毛和種）を外部から導入する際の重視点については、肥育牛 200 頭以上の経営体では、「血統（83.3%）」「価格（77.2%）」「健康状態（76.3%）」「体型の良し悪し（71.9%）」「発育状態（62.3%）」が上位となる（図11）。また、200 頭以上の経営体は、これら上位項目を200 頭未満の経営体よりも重視する傾向がある。

図 11 もと畜（黒毛和種）を導入する際の重視点



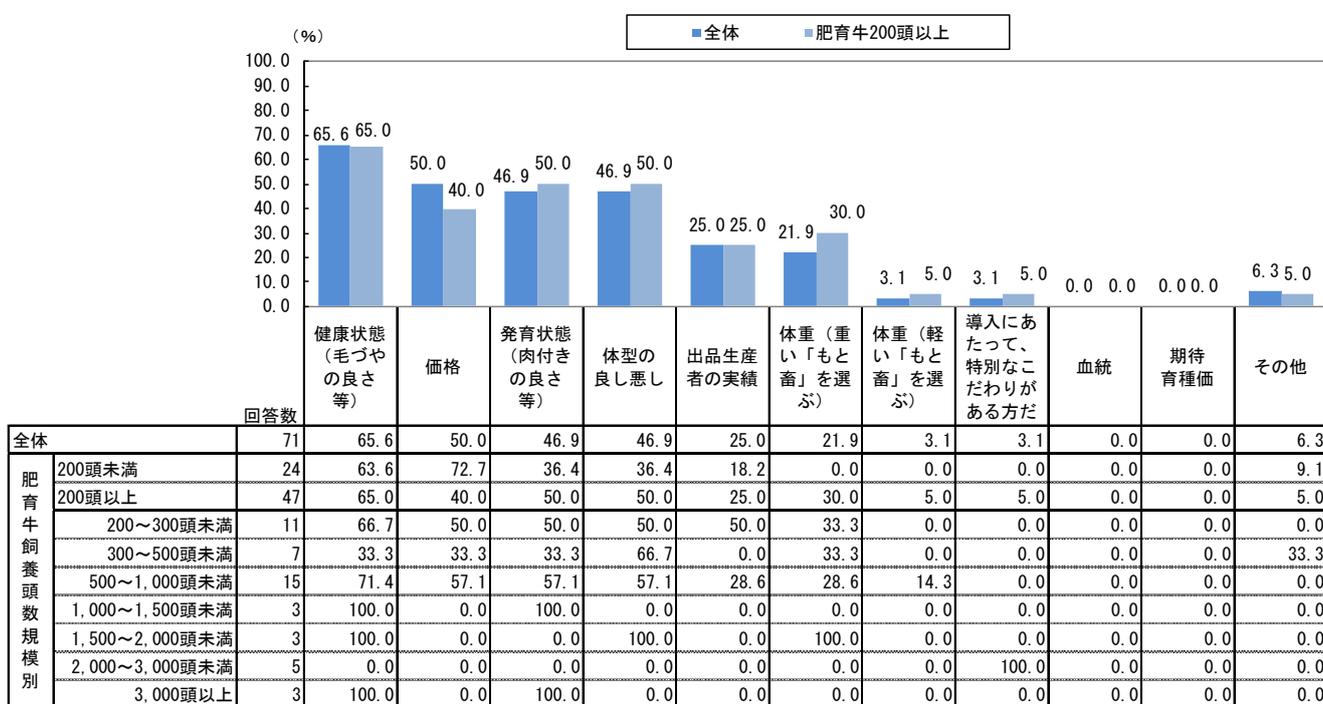
■もと畜（交雑種）を外部から導入する際の重視点については、肥育牛 200 頭以上の経営体では、「健康状態（82.5%）」「価格（66.3%）」「発育状態（62.5%）」「血統（63.8%）」「体型の良し悪し（53.8%）」が上位となる（図12）。

図 12 もと畜（交雑種）を導入する際の重視点



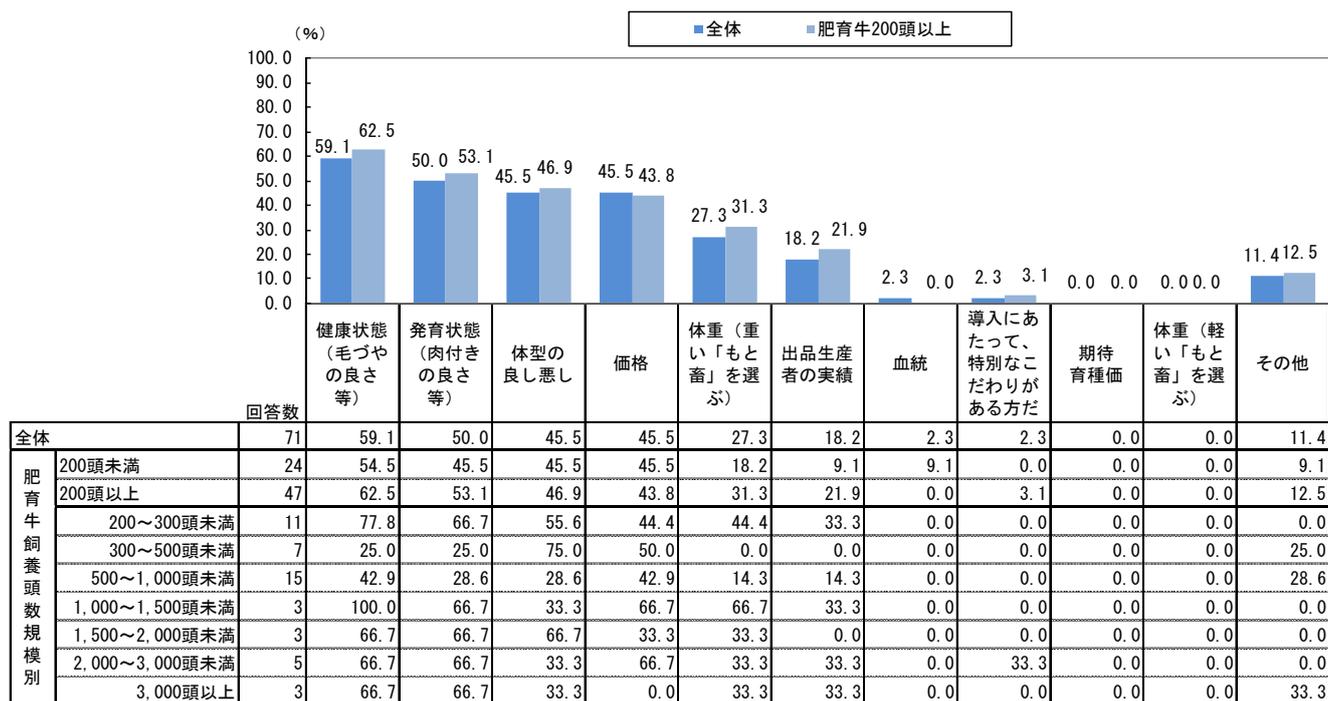
■もと畜（乳用種・初生牛）を外部から導入する際の重視点については、肥育牛200頭以上の経営体では、「健康状態（65.0%）」「価格（40.0%）」「発育状態（50.0%）」「体型の良し悪し（50.0%）」が上位となる（図13）。昨年度は、「健康状態（55.2%）」「価格（37.9%）」「発育状態（31.0%）」「体型の良し悪し（31.0%）」であった。もと畜の価格が高騰する中、事故のリスクを避けるため、「健康状態」「発育状態」「体型の良し悪し」を重視する傾向が強まったと思われる。

図13 もと畜（乳用種・初生牛）を導入する際の重視点



■もと畜（乳用種・子牛）を外部から導入する際の重視点については、肥育牛 200 頭以上の経営体では、「健康状態（62.5%）」「発育状態（53.1%）」「体型の良し悪し（46.9%）」「価格（43.8%）」が上位となる（図 14）。

図 14 もと畜（乳用種・子牛）を導入する際の重視点



## 4 肥育牛の出荷状況

## (1) 黒毛和種

■年間出荷頭数は、200頭以上の経営体では、「黒毛和種」が459頭である。

■平均販売価格は、200頭以上の経営体では、市場出荷の枝肉単価2,351円/kg、相対取引の枝肉単価2,282円/kgとなっている。相対取引の場合でも、市場の価格動向を見ているためか、市場出荷と相対取引の価格差はほとんど見られなかった（表7）。

表7 出荷状況（黒毛和種）

	年間の 出荷頭数 (頭)	市場出荷 の枝肉の 平均単価 (円/kg)	相対取引 の枝肉の 平均単価 (円/kg)	市場出荷 の1頭あ たりの平 均販売額 (円)	相対取引 の1頭あ たりの平 均販売額 (円)	出荷時の 1頭あた りの平均 月齢 (ヶ月)	出荷時の 1頭あた りの平均 生体重 (kg)	1頭あた り平均肥 育日数 (日)	1頭・1 日あた りの平均増 体重 (kg)	
全体	352	2,299	2,280	1,111,360	1,078,458	29.0	734.0	608.6	0.8	
肥育牛・ 飼養規 模別	200頭未満	103	2,124	2,270	1,042,002	1,078,438	28.5	721.7	602.0	0.8
	200頭以上	459	2,351	2,282	1,130,690	1,078,462	29.1	738.0	610.5	0.7
	200～300頭未満	144	2,381	2,307	1,151,153	1,075,298	29.3	735.1	612.8	0.7
	300～500頭未満	260	2,310	2,089	1,049,381	1,071,387	28.6	750.7	598.3	0.8
	500～1,000頭未満	359	2,300	2,366	1,127,758	1,082,390	28.9	730.3	613.6	0.8
	1,000～1,500頭未満	618	2,473	2,429	1,180,000	1,073,983	29.9	717.7	618.6	0.7
	1,500～2,000頭未満	965	2,392	2,266	1,203,646	1,099,234	29.1	755.6	618.2	0.7
	2,000～3,000頭未満	1,330	2,260	2,361	1,175,000	1,071,316	29.7	755.0	611.3	0.8
3,000頭以上	2,366	2,119	2,035	1,142,754	1,074,000	28.3	735.7	593.3	0.8	

## (2) 交雑種

■年間出荷頭数は、200頭以上の経営体では、「交雑種」が767頭である。

■平均販売価格は、200頭以上の経営体では、市場出荷の枝肉単価1,449円/kg、相対取引の枝肉単価1,494円/kgとなっている。黒毛和種と同様に相対取引の場合でも、市場の価格動向を見ているためか、市場出荷と相対取引の価格差はほとんど見られなかった（表8）。

表8 出荷状況（交雑種）

	年間の 出荷頭数 (頭)	市場出荷 の枝肉の 平均単価 (円/kg)	相対取引 の枝肉の 平均単価 (円/kg)	市場出荷 の1頭あ たりの平 均販売額 (円)	相対取引 の1頭あ たりの平 均販売額 (円)	出荷時の 1頭あた りの平均 月齢 (ヶ月)	出荷時の 1頭あた りの平均 生体重 (kg)	1頭あた り平均肥 育日数 (日)	1頭・1 日あた りの平均増 体重 (kg)	
全体	591	1,466	1,502	737,447	734,509	25.5	762.9	551.6	1.0	
肥育牛・ 飼養規 模別	200頭未満	19	1,465	1,599	742,443	703,774	24.9	731.3	591.1	1.0
	200頭以上	767	1,449	1,494	734,944	741,467	25.6	773.8	546.9	1.0
	200～300頭未満	191	1,459	1,557	724,679	732,962	26.3	779.0	557.1	0.9
	300～500頭未満	329	1,309	1,544	717,667	730,247	24.6	742.6	563.1	1.0
	500～1,000頭未満	376	1,474	1,386	714,159	745,009	25.5	793.0	513.3	1.0
	1,000～1,500頭未満	786	1,600	1,455	700,000	733,158	25.4	808.8	553.0	1.0
	1,500～2,000頭未満	1,174	1,465	1,508	780,827	722,510	24.3	784.0	556.8	0.9
	2,000～3,000頭未満	1,369	1,435	1,303	733,200	763,783	25.4	745.7	492.1	1.0
3,000頭以上	2,449	1,536	1,528	769,715	810,923	27.1	791.8	574.8	0.9	

## (3) 乳用種

■年間出荷頭数は、200 頭以上の経営体では、「乳用種」が997 頭である。

■平均販売価格は、200 頭以上の経営体では、市場出荷の枝肉単価 972 円/kg、相対取引の枝肉単価 995 円/kg となっている（表9）。

表9 出荷状況（乳用種）

	年間の 出荷頭数 (頭)	市場出荷 の枝肉の 平均単価 (円/kg)	相対取引 の枝肉の 平均単価 (円/kg)	市場出荷 の1頭あ たりの平 均販売額 (円)	相対取引 の1頭あ たりの平 均販売額 (円)	出荷時の 1頭あた りの平均 月齢 (ヶ月)	出荷時の 1頭あた りの平均 生体重 (kg)	1頭あた り平均肥 育日数 (日)	1頭・1 日あた りの平均増 体重 (kg)	
全体	745	946	997	488,236	502,555	20.4	747.5	427.4	1.2	
肥育牛・ 飼養規 模別	200頭未満	43	917	1,013	486,686	22.4	688.2	471.5	1.0	
	200頭以上	997	972	995	489,786	19.7	786.5	413.4	1.3	
	200～300頭未満	216	973	1,088	490,000	20.4	784.3	454.4	1.3	
	300～500頭未満	323	-	987	-	509,411	20.6	868.2	474.0	1.4
	500～1,000頭未満	841	1,048	993	480,000	19.6	766.5	380.2	1.2	
	1,000～1,500頭未満	1,132	-	1,002	-	490,000	17.6	741.7	395.0	1.3
	1,500～2,000頭未満	1,676	-	870	-	494,900	19.4	730.0	380.0	1.2
	2,000～3,000頭未満	2,024	800	1,024	-	502,443	19.5	810.5	407.5	1.2
3,000頭以上	3,684	1,019	791	499,250	-	20.2	806.3	396.0	1.2	

## (4) 年間の副産物の状況

■きゅう肥の販売数量は、200 頭以上の経営体では1,831 トンとなっている。

■きゅう肥の売上は、200 頭以上の経営体では741 万円となっている。経営体の中には、きゅう肥を積極的に販売し、事業の一つとして位置付けている所もある（表10）。

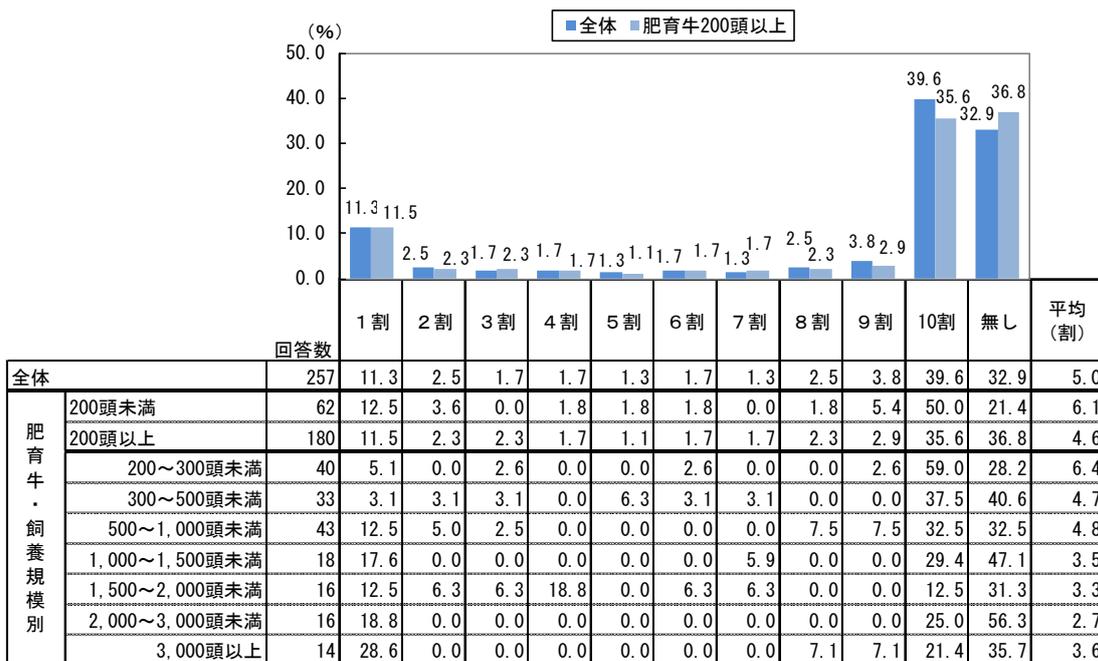
表10 副産物の状況

	副産物			
	きゅう肥の 販売数量 (トン)	きゅう肥の 売上 (万円)	その他 (万円)	
全体	1,513	621	892	
肥育牛・ 飼養規 模別	200頭未満	214	55	109
	200頭以上	1,831	741	1,283
	200～300頭未満	713	155	1,206
	300～500頭未満	962	111	-
	500～1,000頭未満	911	332	220
	1,000～1,500頭未満	2,445	1,777	-
	1,500～2,000頭未満	1,531	1,088	2,500
	2,000～3,000頭未満	3,646	787	-
3,000頭以上	6,166	2,577	-	

(5) 市場出荷、相対取引の状況

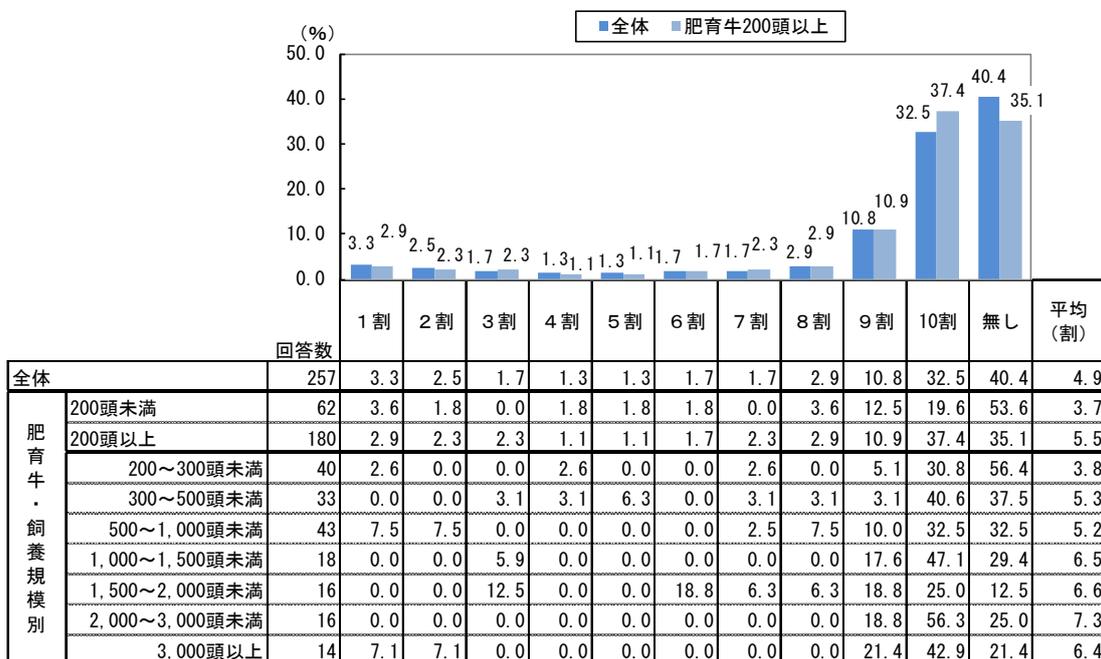
■市場出荷の実施は、200頭以上の経営体では、平均4.6割となっている(図15)。200頭未満の経営体と比較すると、市場出荷の割合はやや低い。

図15 市場出荷の割合



■相対取引の実施は、200頭以上の経営体で多く行なわれており、平均5.5割となっている(図16)。経営規模の拡大とともに、相対取引の実績も増加傾向にある。1,000頭以上の経営体では、平均6割以上が相対取引である。

図16 相対取引の割合



- 相対取引の取引先は、200頭以上の経営体では「法人」87.0%と大半を占めている（図17）。200頭未満でも「法人」が76.9%を占め、頭数規模に関わらず、相対取引の取引先は「法人」が多い。
- 相対取引の取引先の地域は、県内が多く、200頭以上の経営体は「全て県内」（40.0%）、「県内が多い」（17.1%）となっている（図18）。200頭未満の経営体でも、「全て県内」が61.5%と多い。

図 17 相対取引の取引先

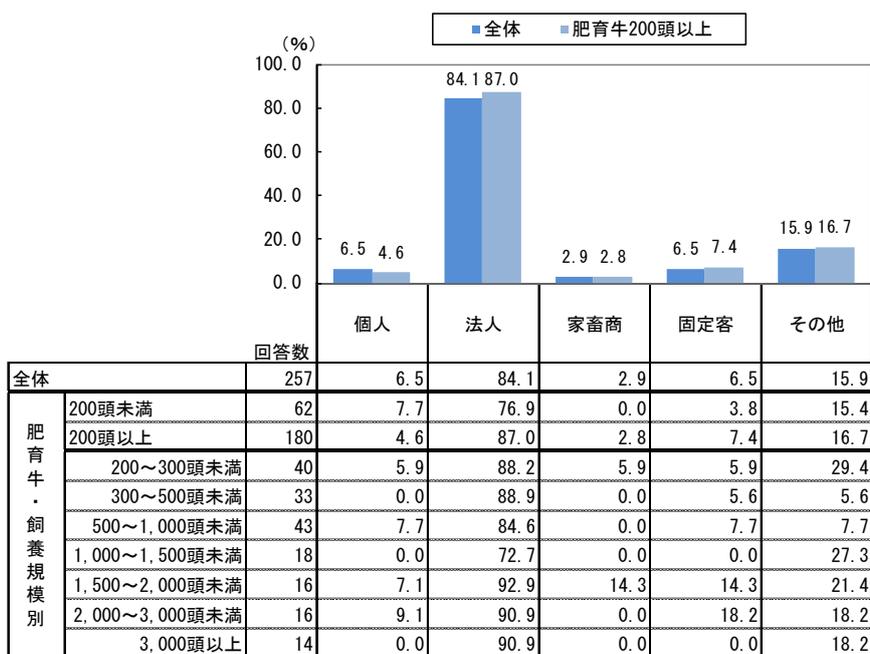
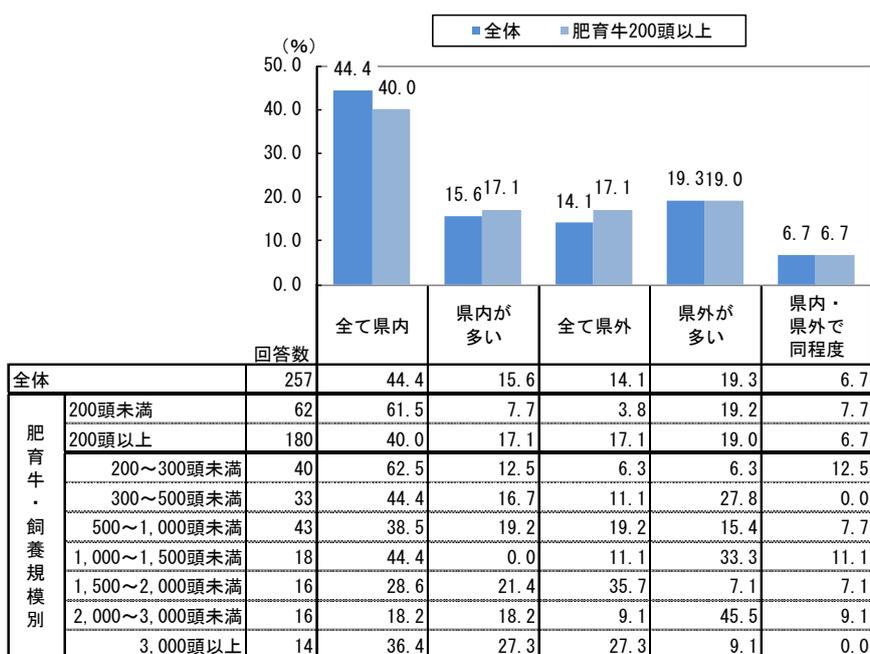


図 18 相対取引の取引先の地域



## 5 繁殖雌牛の種付状況

■黒毛和種の主な種付方法は「人工授精」であり、受胎率は78.5%となっている。

■交雑種の種付方法は「受精卵移植」であり、受胎率は68.7%となっている。

■乳用種の主な種付方法は「人工授精」であり、受胎率は50.8%となっている。(表11)。

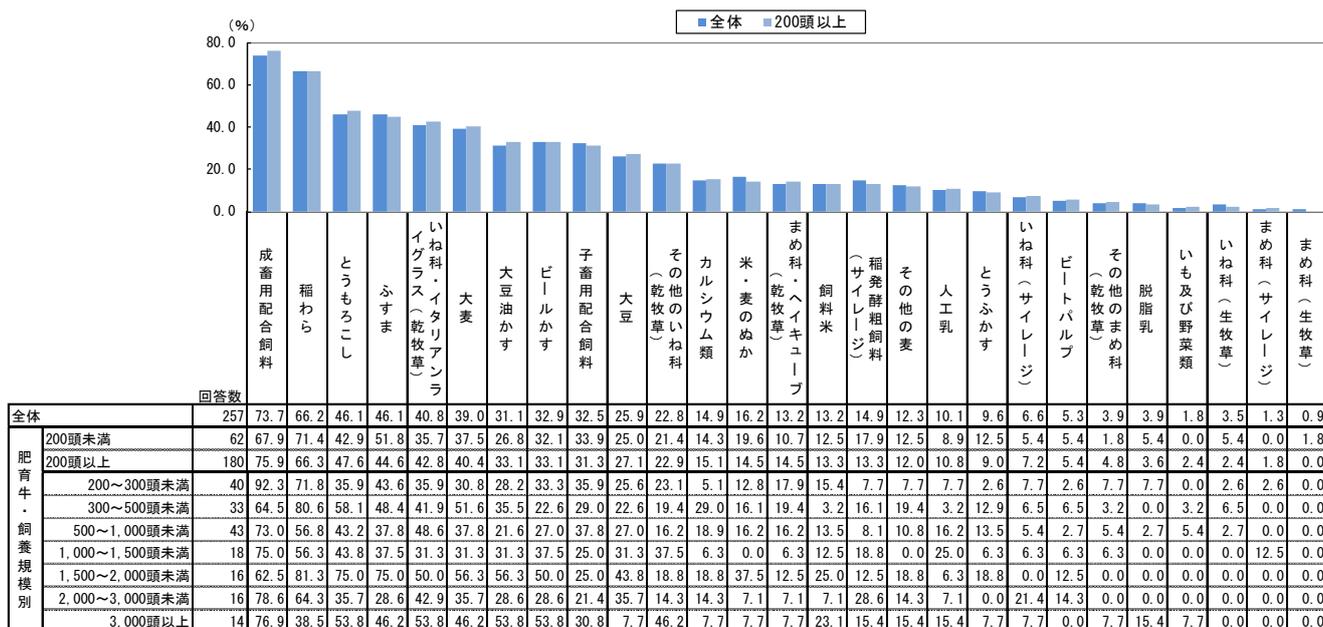
表 11 繁殖雌牛の種付状況

繁殖雌牛の種類	主な種付方法		受胎した頭数(頭)	受胎率(%)	精液、及び受精卵の外部購入割合(%)	1頭1回あたりの精液代・受精卵代(技術料を除く)(円)	1頭1回あたりの技術料(円)	人工授精・受胎までの回数
	(n)							
①黒毛和種	1:人工授精	74 98.7	152	78.5	97.3	15,123	6,260	2.0
	2:受精卵移植	16 21.3	36	62.0	64.0	18,536	8,475	2.1
	3:自然交配	4 5.3	40	69.7	-	-	-	1.0
②交雑種	1:人工授精	3 21.4	2	-	100.0	-	-	-
	2:受精卵移植	13 92.9	35	68.7	100.0	24,227	7,829	2.0
	3:自然交配	1 7.1	96	80.0	-	-	-	-
③乳用種	1:人工授精	6 100.0	225	50.8	85.0	4,667	4,500	2.6
	2:受精卵移植	5 83.3	59	47.3	55.0	15,000	10,000	1.8
	3:自然交配	1 16.7	-	-	-	-	-	-

### 6 飼料の給与状況

■給与している飼料の種類について見ると、200頭以上の経営体では「成畜用配合飼料(75.9%)」「稲わら(66.3%)」「とうもろこし(47.6%)」「ふすま(44.6%)」「いね科・イタリアンライグラス(42.8%)」「大麦(40.4%)」の給与が多くなっている(図19)。

図19 飼料の給与状況



■肥育牛の給与状況(1日あたりの1頭への給与量)を見ると、肥育前期では8.1kg、肥育中期では9.9kg、仕上げ期では9.7kgとなっている(表12)。

■1kgあたりの購入単価(全体)は、①肥育前期で50.7円、②肥育中期で49.3円、③仕上げ期で49.6円である。昨年度は、①肥育前期で54.6円、②肥育中期で52.3円、③仕上げ期で52.6円であった。輸入飼料の価格低下や、経営体が積極的に相見積もりを取り、飼料会社を競争させたこと等がコストダウンの背景にあると思われる。

表12 飼料の給与状況(全体)

		1日あたり、1頭への飼料給与量(kg)	飼料給与量のうち、購入飼料量(kg)	購入飼料の1kgあたりの単価(円)
(1) 肥育牛	① 肥育前期(6~16ヶ月)	8.1	7.6	50.7
	② 肥育中期(16~23ヶ月)	9.9	9.4	49.3
	③ 肥育仕上げ期(23~30ヶ月)	9.7	9.4	49.6
(2) 繁殖雌牛	① 肥育段階(8ヶ月齢)	5.2	4.5	53.8
	② 成牛段階(14ヶ月齢)	5.0	3.8	53.6

- 肥育牛の給与状況（1日あたりの1頭への給与量）を品種別に見ると、黒毛和種は、肥育前期では8.1kg、肥育中期では9.9kg、仕上げ期では9.6kgとなっている。交雑種は、肥育前期では8.3kg、肥育中期では10.2kg、仕上げ期では9.8kgとなっている。乳用種は、肥育前期では10.3kg、肥育中期では10.5kg、仕上げ期では10.2kgとなっている。（表12）。
- 1kgあたりの購入単価は、黒毛和種が肥育期間を通じて50円超となっており、交雑種・乳用種と比較すると、購入単価はやや高めである。

表13 飼料の給与状況（品種別）

		1日あたり、 1頭への飼料給与量 (kg)	飼料給与量のうち、 購入飼料量 (kg)	購入飼料の 1kgあたりの単価 (円)
(3)肥育牛・ 黒毛和種	①肥育前期（6～16ヶ月）	8.1	7.8	51.3
	②肥育中期（16～23ヶ月）	9.9	9.7	50.0
	③肥育仕上げ期（23～30ヶ月）	9.6	9.4	50.3
		1日あたり、 1頭への飼料給与量 (kg)	飼料給与量のうち、 購入飼料量 (kg)	購入飼料の 1kgあたりの単価 (円)
(4)肥育牛・ 交雑種	①肥育前期（6～16ヶ月）	8.3	7.7	49.5
	②肥育中期（16～23ヶ月）	10.2	9.7	48.1
	③肥育仕上げ期（23～30ヶ月）	9.8	9.4	49.0
		1日あたり、 1頭への飼料給与量 (kg)	飼料給与量のうち、 購入飼料量 (kg)	購入飼料の 1kgあたりの単価 (円)
(5)肥育牛・ 乳用種	①肥育前期（6～16ヶ月）	10.3	9.5	49.0
	②肥育中期（16～23ヶ月）	10.5	9.7	48.8
	③肥育仕上げ期（23～30ヶ月）	10.2	9.5	49.4

7 敷料の使用状況

■敷料の使用状況は、「おが粉」の使用率が圧倒的に高く、200頭以上の経営体で89.0%の使用率となっている。ただし、近年の住宅着工件数の低迷、輸入製材の増加、バイオマス発電の使用等を理由に、「おが粉」は入手しづらい状況が想定される。将来的には、他の敷料の使用が増加するケースも考えられる（図20）。

図20 敷料の使用状況（複数回答）

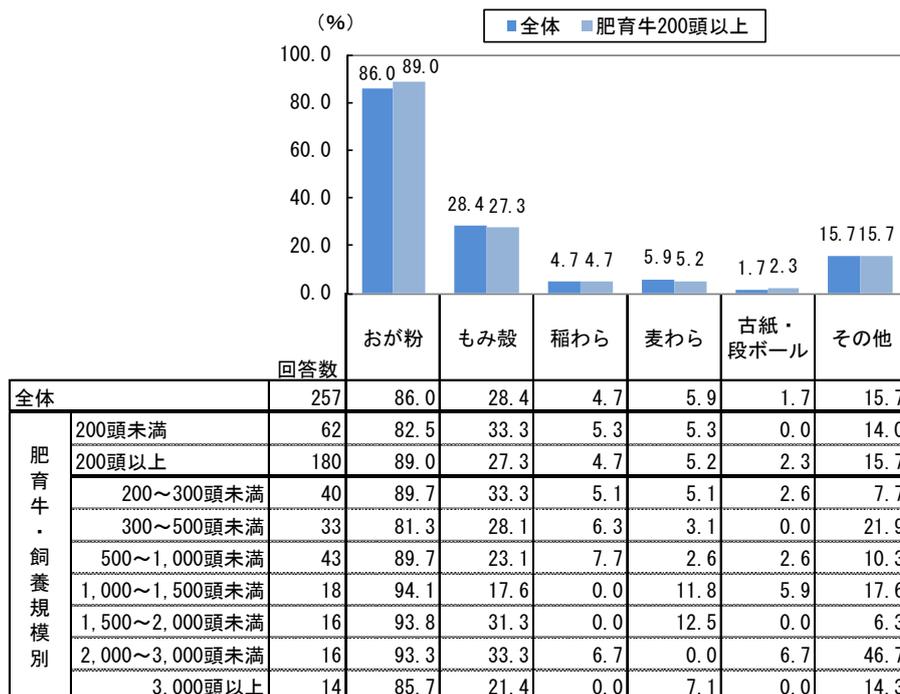


表14 敷料の量、単価

		1日あたり、 1頭への敷料の量 (kg)	敷料の 1トンあたりの単価 (円)
(1) 肥育牛	① 肥育前期（6～16ヶ月）	2.2	13,114
	② 肥育中期（16～23ヶ月）	2.0	13,044
	③ 肥育仕上げ期（23～30ヶ月）	2.1	12,674
(2) 繁殖雌牛	① 肥育段階（8ヶ月齢）	2.1	12,691
	② 成牛段階（14ヶ月齢）	2.0	12,623

8 経営に関する取り組み

(1) 現在行なっている経営努力

■200頭以上の経営体が現在行なっている経営努力は、「低価格な飼料調達に努めている（65.3%）」  
 「機械化を積極的に進めている（56.0%）」「もと畜を低コストで導入する（42.0%）」「従業員の安全を確保（40.0%）」  
 「低価格の敷料調達に努めている（36.0%）」「自社ブランドを確立し、出荷金額を高めている（36.0%）」  
 等が多い。生産コストにおいて占める割合の高い、もと畜費や飼料費の抑制、機械化による効率化といった対応策が目立っている（図21）。

図 21 現在行なっている経営努力（複数回答）

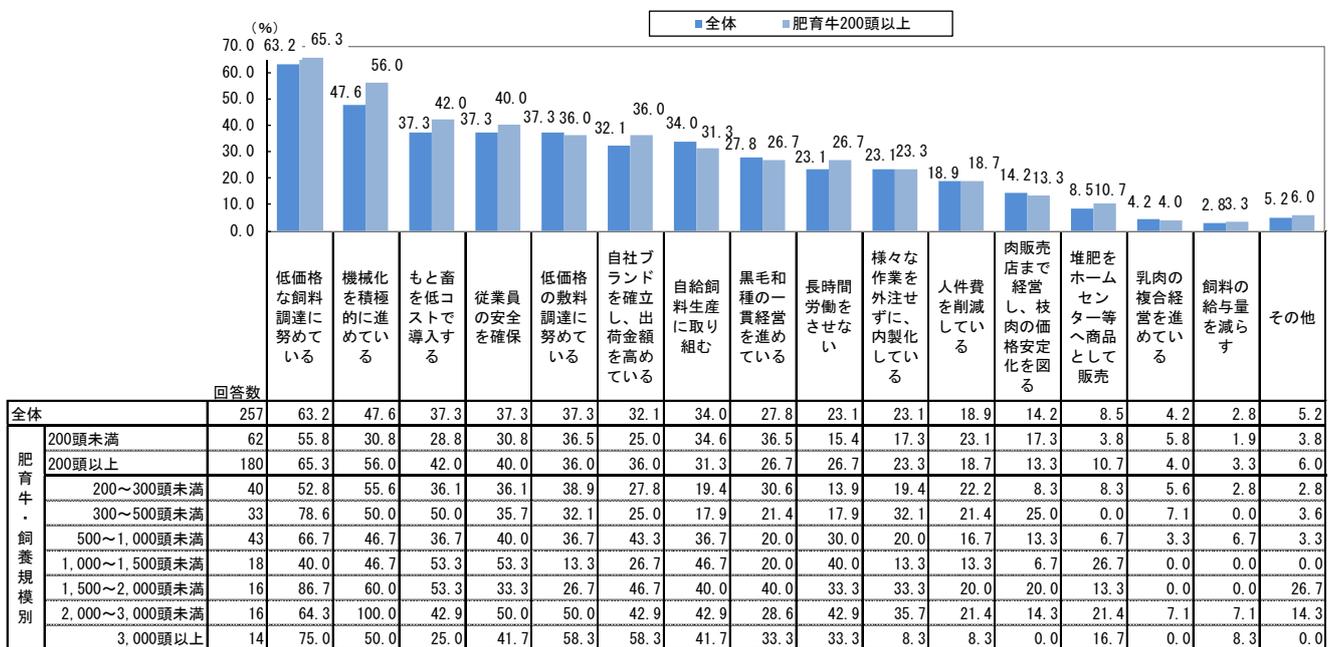


図 22 現在行なっている経営努力（黒毛和種、複数回答）

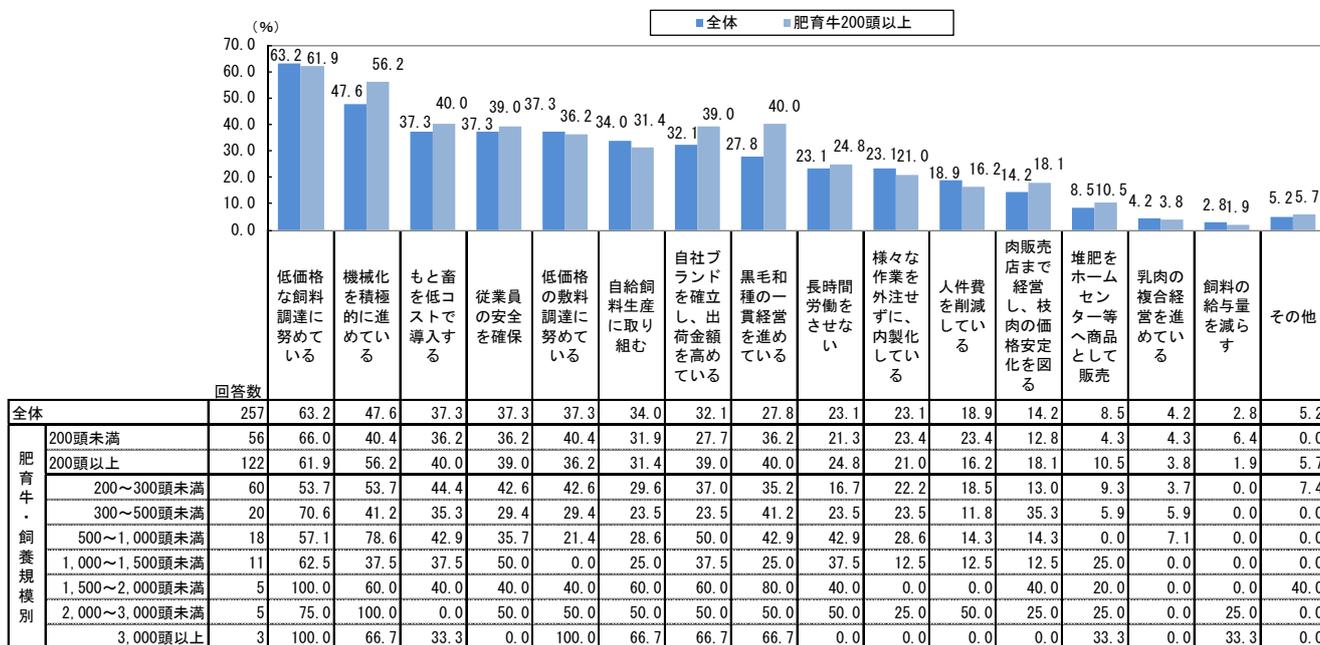


図 23 現在行なっている経営努力（交雑種、複数回答）

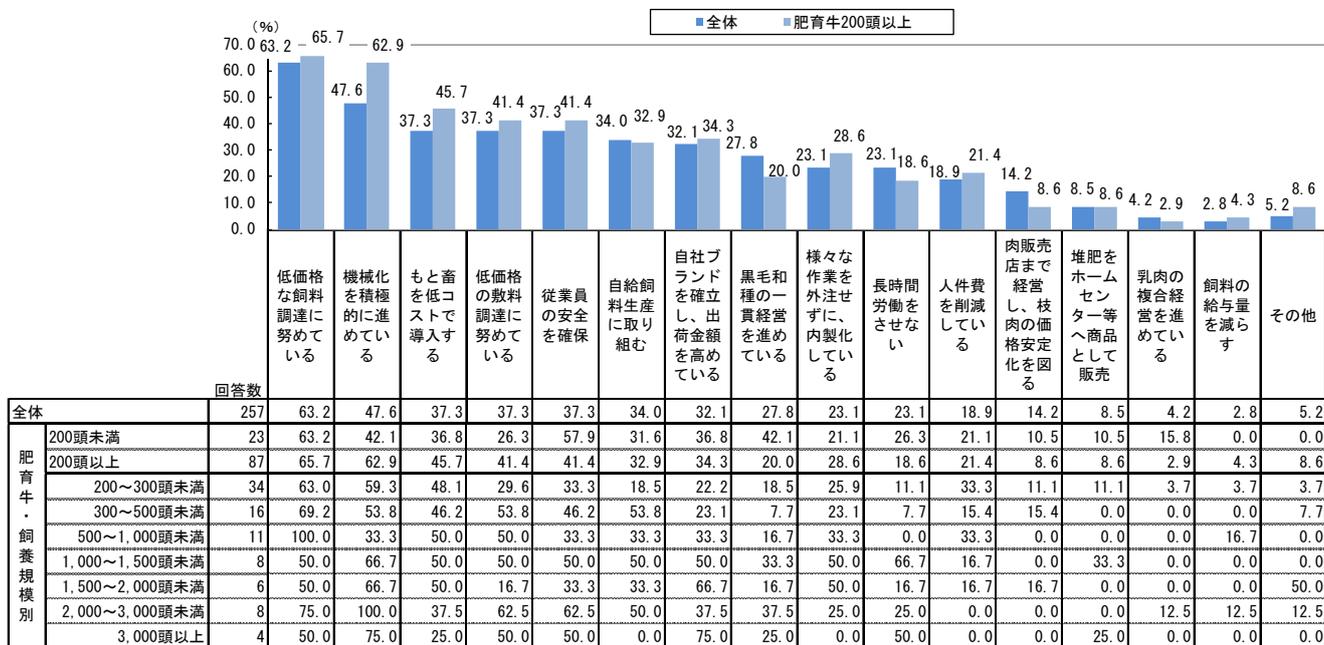
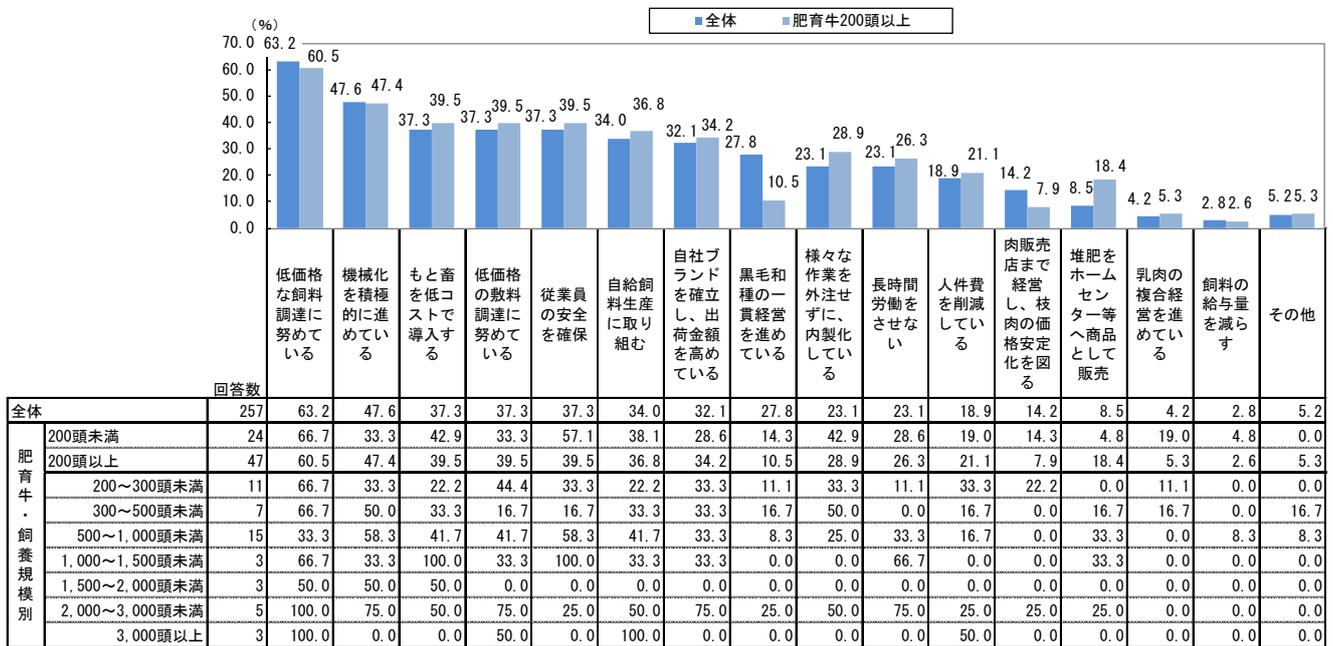


図 24 現在行なっている経営努力（乳用種、複数回答）



(2) 今後3年間の経営展開の方向性

■今後3年間の経営展開については、状況を見極めることもあってか、「現状維持」が最も多く、200頭以上の経営体では、63.9%を占める。一方、「増頭」する経営体は30.6%を占めており、3,000頭以上の経営体は、「増頭」に42.9%が意欲を見せている（図25）。200頭以上の経営体で品種別に見ると、他の品種に比べ、黒毛和種の「増頭」意向が36.1%と多くなっている（図26～28）。

図25 今後3年間の経営展開の方向性（全体）

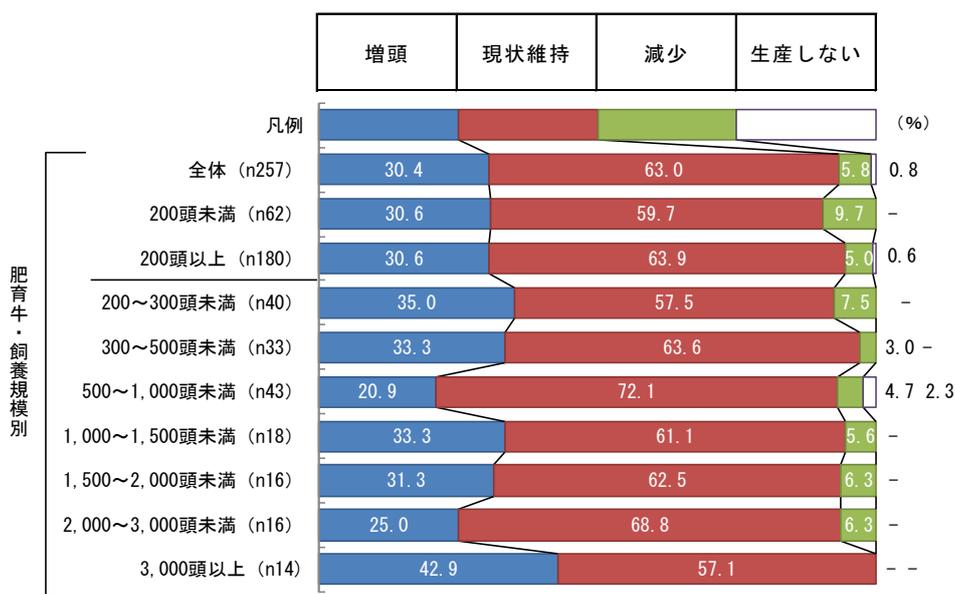


図26 今後3年間の経営展開の方向性（黒毛和種）

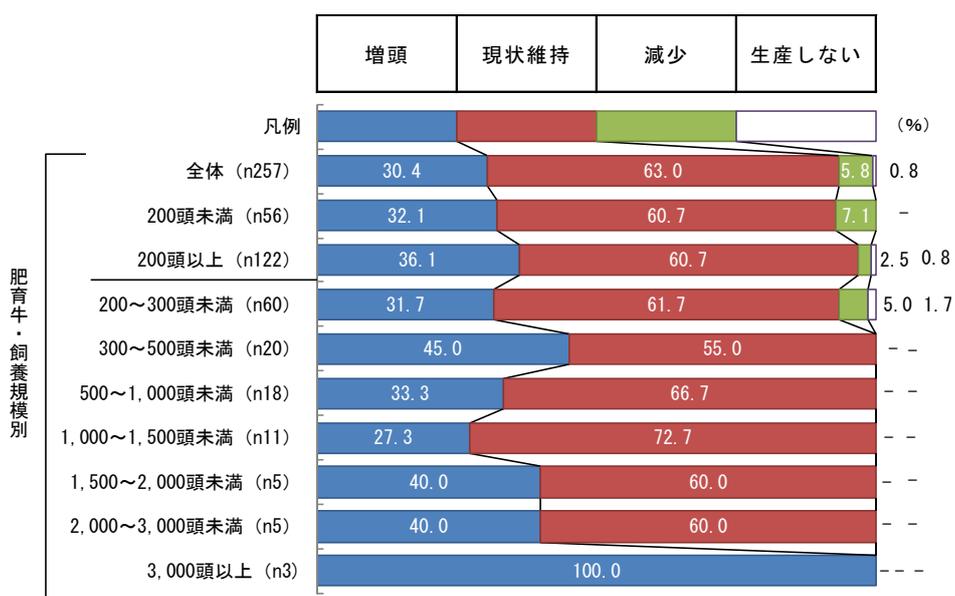


図 27 今後3年間の経営展開の方向性（交雑種）

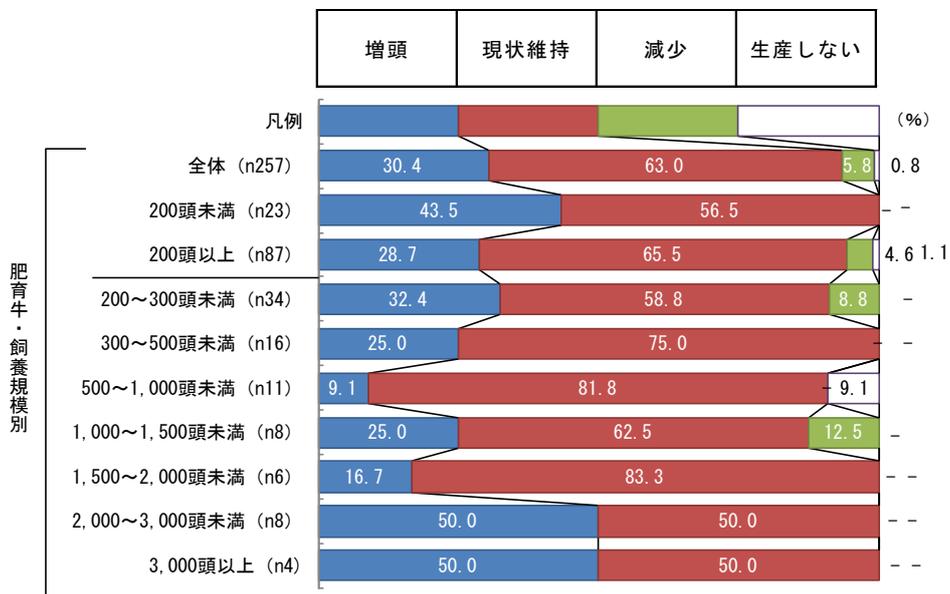
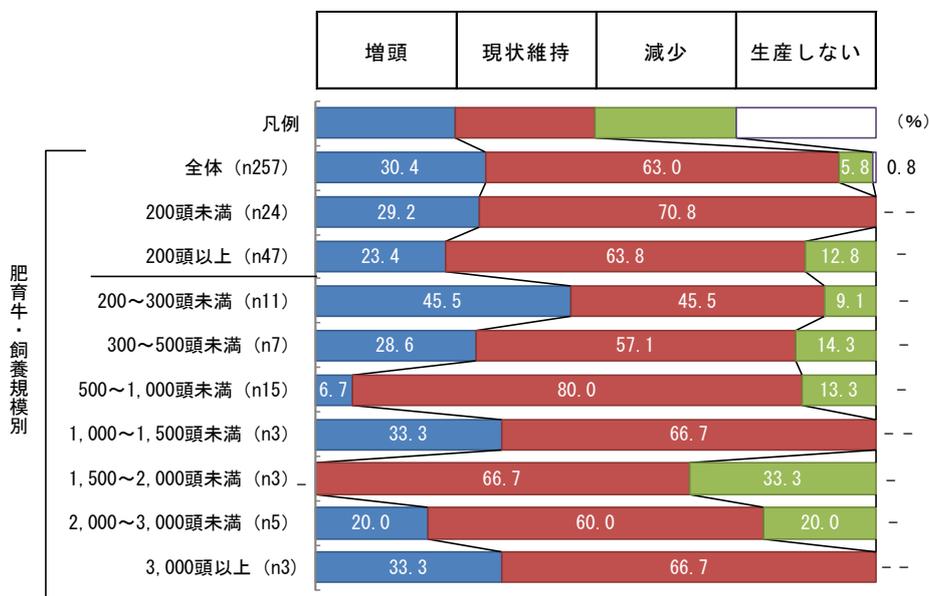


図 28 今後3年間の経営展開の方向性（乳用種）



■増頭する理由は、「出荷先があるため」が全体で41.1%と最も多く、販路確保の如何が経営規模拡大に不可欠なこととして表われている（図29）。その他、もと畜の入手が困難な状況を反映して、「後継牛を確保するため」といった理由も目立っている。

図 29 増頭の理由（全体）

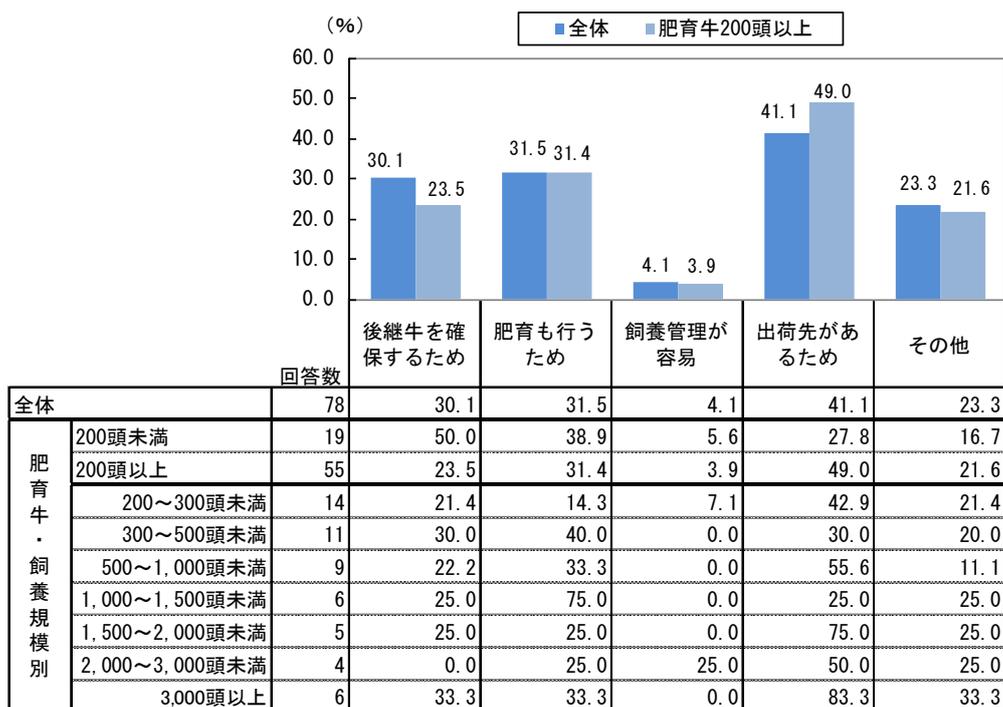
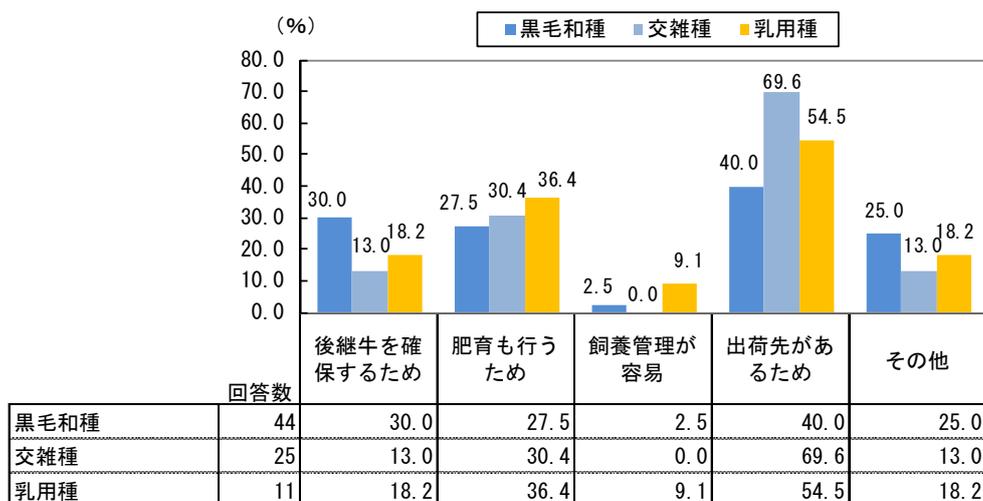


図 30 増頭の理由（品種別）



※200頭以上

■規模拡大を実現するためには、200 頭以上の経営体では、「資金繰り (69.8%)」「施設・機械の更新・拡大 (66.0%)」「子牛の導入価格・販売価格の動向 (58.5%)」「肥育牛の販売価格の動向 (58.5%)」「土地面積の拡大 (52.8%)」「後継者・人材確保、育成 (43.4%)」等の課題がある (図 31)。昨年度は、「後継者・人材確保、育成」が200 頭以上の経営体で30.8%であったが、今年度は43.4%と増加している。産業界全体で人材難が問題となっているが、肉用牛経営も後継者問題・人材不足の問題が顕在化してきたと思われる。

図 31 規模拡大を実現するための課題 (全体)

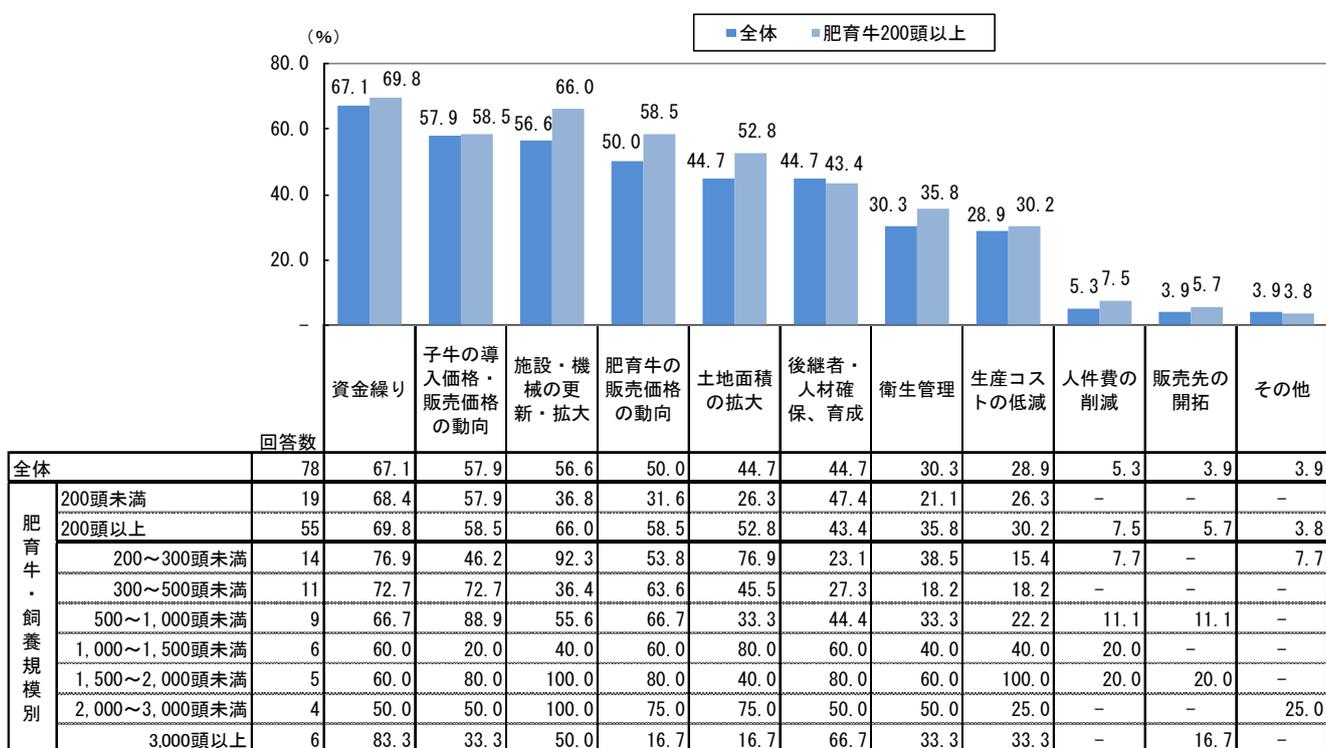
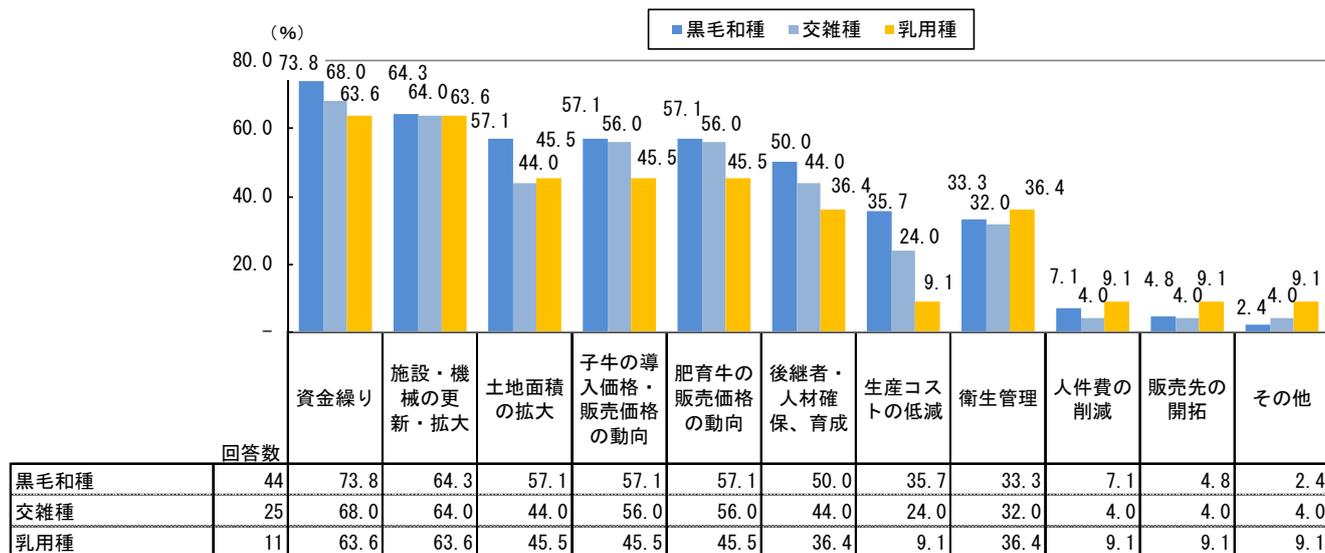


図 32 規模拡大を実現するための課題（品種別）



※200頭以上

■今後3年間の経営規模について、200頭以上の経営体では、「現状維持(63.9%)」「減少する(5.0%)」(図25)の回答理由は、「もと牛価格の高騰」が圧倒的に多く、60%以上を占めている(図33)。

図33 現状維持、または減少する理由(全体)

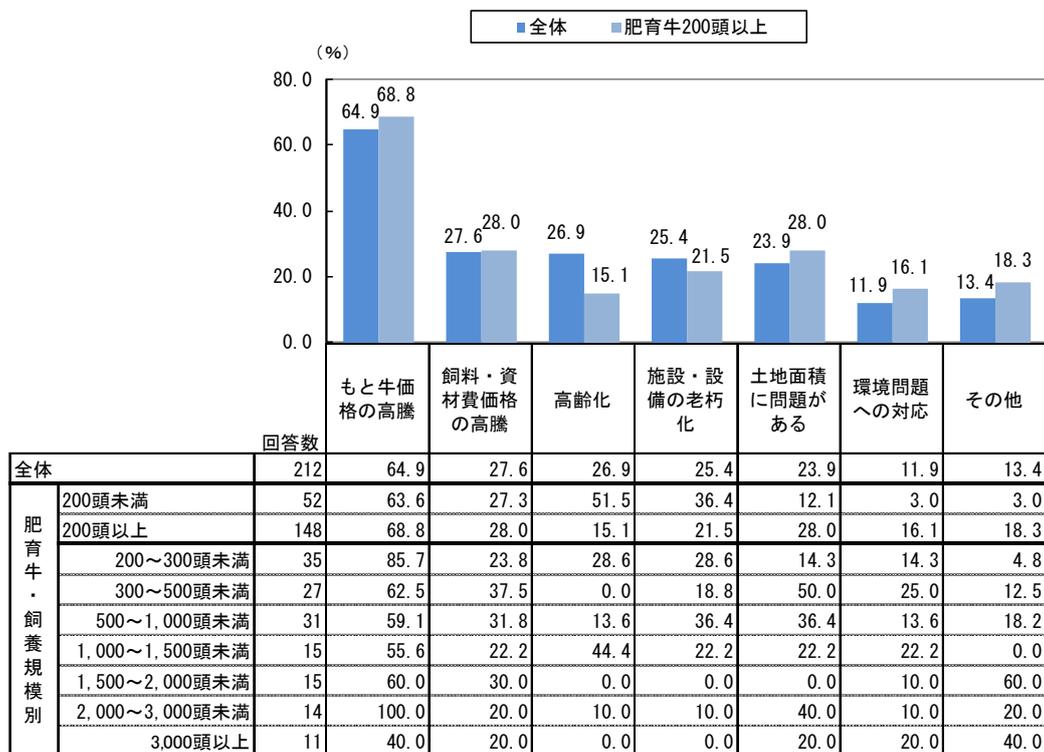
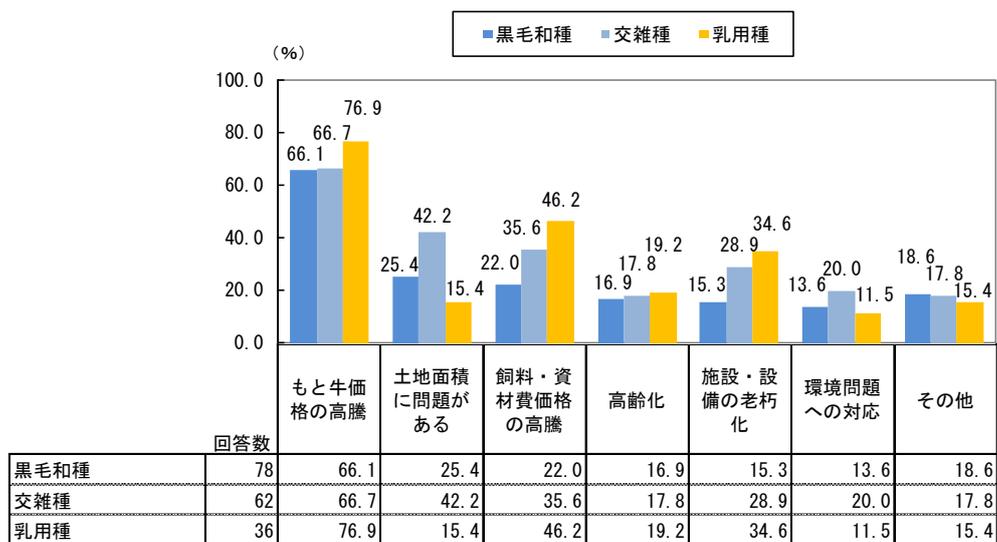


図34 現状維持、または減少する理由(品種別)



※200頭以上